

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成20年3月28日
【事業年度】	第9期(自平成19年1月1日至平成19年12月31日)
【会社名】	株式会社ファンコミュニケーションズ
【英訳名】	F@N Communications Inc.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 柳澤 安慶
【本店の所在の場所】	東京都渋谷区渋谷一丁目1番8号
【電話番号】	03-5766-3530
【事務連絡者氏名】	管理部管掌取締役 堂下 裕章
【最寄りの連絡場所】	東京都渋谷区渋谷一丁目1番8号
【電話番号】	03-5766-3530
【事務連絡者氏名】	管理部管掌取締役 堂下 裕章
【縦覧に供する場所】	株式会社ジャスダック証券取引所 (東京都中央区日本橋茅場町1丁目4番9号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

提出会社の状況

回次		第5期	第6期	第7期	第8期	第9期
決算年月		平成15年12月	平成16年12月	平成17年12月	平成18年12月	平成19年12月
売上高	(千円)	1,043,678	2,304,421	4,270,550	5,367,930	5,687,521
経常利益	(千円)	24,741	302,753	765,882	994,895	973,435
当期純利益	(千円)	2,090	279,265	450,475	589,976	485,904
持分法を適用した場合の 投資損失()	(千円)	10,081	-	-	-	-
資本金	(千円)	226,150	246,150	883,300	895,300	914,150
発行済株式総数	(株)	3,250	3,450	18,776	96,280	99,345
純資産額	(千円)	119,567	438,870	2,501,696	3,112,555	3,345,490
総資産額	(千円)	424,516	1,173,095	3,795,683	4,533,465	4,700,209
1株当たり純資産額	(円)	36,789.96	127,208.74	133,239.05	32,328.15	33,873.06
1株当たり配当額 (うち1株当たり中間配当額)	(円)	- (-)	- (-)	- (-)	1,200 (-)	1,200 (-)
1株当たり当期純利益金額	(円)	643.27	85,783.75	26,538.58	6,170.27	4,965.41
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益金額	(円)	-	-	22,307.16	5,385.04	4,480.22
自己資本比率	(%)	28.2	37.4	65.9	68.7	71.0
自己資本利益率	(%)	1.76	100.02	30.64	21.02	15.07
株価収益率	(倍)	-	-	173.3	49.8	26.58
配当性向	(%)	-	-	-	19.4	24.2
営業活動によるキャッ シュ・フロー	(千円)	128,540	487,194	924,192	618,660	608,449
投資活動によるキャッ シュ・フロー	(千円)	35,104	43,740	201,588	2,049,222	422,197
財務活動によるキャッ シュ・フロー	(千円)	4,554	74,092	1,605,925	24,863	270,872
現金及び現金同等物の期 末残高	(千円)	149,180	666,727	2,995,255	1,589,557	1,504,936
従業員数 [外、平均臨時雇用者数]	(人)	28 [10]	37 [15]	68 [24]	103 [40]	112 [45]

(注) 1. 当社は、連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 第6期に関係会社株式を売却したことにより、関係会社が存在しなくなったため、第6期より持分法を適用した場合の投資損益は記載しておりません。

4. 第5期及び第6期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、新株引受権付社債及び新株予約権を発行しており、新株引受権及び新株予約権の残高がありますが、各期において当社株式は非上場・非登録であり、期中平均株価が把握できないので記載しておりません。

5. 第5期及び第6期の株価収益率については、各期において当社株式は非上場・非登録であり、貸借対照表日における株価が把握できないので記載しておりません。

6. 当社は、平成17年3月9日付をもって株式1株につき4株、平成18年3月1日付をもって株式1株につき5

株の分割を行っております。そこで、当該株式分割に伴う影響を加味し、遡及修正を行った場合の1株当たりの指標の推移を参考までに掲げると以下のとおりになります。

回次	第5期	第6期	第7期	第8期	第9期
決算年月	平成15年12月	平成16年12月	平成17年12月	平成18年12月	平成19年12月
1株当たり純資産額 (円)	1,839.50	6,360.44	26,647.81	32,328.15	33,873.06
1株当たり当期純利益金額 (円)	32.16	4,289.19	5,307.72	6,170.27	4,965.41

2【沿革】

年月	事項
平成11年10月	東京都港区南青山においてインターネット上のマーケティングをサポートするWeb技術会社として設立
平成11年11月	株式会社バンジョーキャピタルズ（現社名 株式会社インフォストックズドットコム）を子会社として設立（その後、同社の第三者割当増資による持分比率の低下により、関連会社となる）
平成12年4月	株式会社バンジョーキャピタルズが株式会社インフォストックズドットコムに社名変更
平成12年6月	アフィリエイトプログラム運営サービス「エーハチネット」開始
平成12年11月	本社を東京都渋谷区神宮前に移転
平成16年2月	本社を東京都渋谷区渋谷に移転
平成16年12月	関連会社株式会社インフォストックズドットコム株式を全株売却し、資本関係を解消
平成17年11月	ジャスダック証券取引所に株式を上場
平成18年3月	携帯向けアフィリエイトプログラム運営サービス「モバハチネット」開始

3【事業の内容】

当社はインターネット広告市場において、オンライン上のマーケティングコストを削減する「パフォーマンスマーケティング」を事業コンセプトとして、オンラインでマーケティング活動を展開する企業に対して、アフィリエイト・プログラム運営サービス（以下「アフィリエイト広告サービス」という。）である「エーハチネット」及び携帯向け同サービス「モバハチネット」を主要サービスとして提供しております。

アフィリエイト・プログラムとは、「成果報酬型広告」とも呼ばれ、広告主のWebサイト（以下「サイト」という。）において何らかの成果（購買、資料請求、会員登録等）が発生した場合に、広告媒体となるサイト（広告主のバナー広告やサイトURLを表示したサイト：以下「パートナーサイト」という。）に対して、成果に応じた報酬を支払うという広告形態であります。広告主は、広告目的が達成された場合に、その達成状況に応じて成果報酬（広告料）を支払えばよい場合費用対効果が高く、また広告媒体は媒体のスペースを生かした収益獲得が可能となり、インターネット広告業界において浸透しつつある新しい広告手法であります。

また、当社自らが広告媒体となるサイトを運営するほか、付随的にインターネット広告代理業を行っており、サービス区分としましては、「パソコン向けアフィリエイト広告サービス」「携帯向けアフィリエイト広告サービス」「自社媒体運営」「他社媒体広告販売」「その他売上」の5つの区分に分類されます。

サービス区分	事業内容
パソコン向けアフィリエイト広告サービス	パソコン向けアフィリエイト広告サービス「エーハチネット」の運営
携帯向けアフィリエイト広告サービス	携帯向けアフィリエイト広告サービス「モバハチネット」の運営
自社媒体運営	主なサイト名とカテゴリー SampleFan.com（サンプル情報サイト） auken（モバイルポータルサイト） BlogPeople.net（ブログ記事更新通知サービス） 夕刊フジBlog（掲載記事連動ブログ形式モバイルサイト）
他社媒体広告販売	インターネット広告代理業
その他売上	出版、セミナー収入等

各分野別の具体的なサービス内容は次のとおりであります。

(1) パソコン及び携帯向けアフィリエイト広告サービス

当社は、インターネット上でマーケティング活動を行う企業に対して、効率的に見込客を集客するサービスである、アフィリエイト広告サービス「エーハチネット」及び携帯向け同サービス「モバハチネット」を提供しております。

当社は、自社のアフィリエイト・プログラム用システムを使用して複数の広告主と、複数のパートナーサイトを仲介するという意味で、自社を「アフィリエイトサービスプロバイダー」と位置付けており、インターネット上でサイトを有する企業及び個人のすべてが、当社の広告主又はパートナーサイトとして、「エーハチネット」及び「モバハチネット」の会員となることが可能であります。

当社が運営するアフィリエイト広告サービスでは、当社が募集して審査及び会員登録を行った複数のパートナーサイトと複数の広告主のニーズをマッチさせ、各広告別の成果の計算、広告主からの広告料の回収、及びパートナーサイト運営者に対する成果報酬の支払を当社が行っています。

アフィリエイト・プログラムは、広告主自らがインターネット上で独自にパートナーサイトを募集し、自社で成果報酬計算等の運営を行うことも可能であります。ただし、一企業がこのような形で、自らアフィリエイト・プログラムの運用を行うには、システムの構築・運営及びパートナーサイト募集において、莫大なコストと時間を要し、またパートナーサイト側から見た場合にも、複数の広告主から自分のサイトに合った広告を選択したいというニーズが高いことから、実際に自社での運営が可能なのは一部の大企業に限られております。

当社は、広告主とパートナーサイトを媒介する会社として、いち早く「エーハチネット」というインフラを立ち上げてきました。平成18年3月には携帯向けアフィリエイト広告サービス「モバハチネット」を立ち上げ、異なる端末を利用するニーズに応える体制が整いました。既に多数の広告主とパートナーサイトを有する当社のサービス利用により、広告主は短期間で効率的なマーケティングが、パートナーサイトは自分のサイトに合った複数の広告主からの成果報酬獲得が可能となります。

パートナーサイトには、個人や法人が公開しているホームページ、ブログ、メールマガジン等が含まれます。「エーハチネット」及び「モバハチネット」への参加を希望するパートナーサイト運営者は、「エーハチネット」又は「モバハチネット」サイト内の登録画面に「規約を遵守する旨」を含めた所定事項を入力して会員登録の申し込みを行い、当社社内基準等に基づく審査を経て登録されます。

「エーハチネット」及び「モバハチネット」への参加を希望する広告主についても、当社社内基準等に基づく登録審査を経て、「エーハチネット」・「モバハチネット」利用契約と広告主としての登録を行っています。

登録された広告主は「エーハチネット」及び「モバハチネット」を通じて成果報酬の条件を提示し、アフィリエイト・プログラムに参加する（自社製品等のバナー広告又は自社サイトのURLを表示してくれる）パートナーサイトを募集します。成果として認識する際の条件については、クリック、会員入会、商品やサービスの販売等、広告主がその目的に合わせて自由に決めることができます。広告主は、応募のあったパートナーサイトの内容を自ら確認し、企業イメージへの合致等の観点を含めてアフィリエイト・プログラムへの参加を許諾するパートナーサイトを決定します。

許諾を受けたパートナーサイト運営者は、自身が公開するサイト又はメールマガジンへ広告主のバナー画像やテキスト広告などのリンクを掲載します。インターネットユーザーがその広告をクリックし、リンク先である広告主のサイトを訪問し、かつ商品購入等の成果に結びついた場合に、成果報酬が発生します。当社は広告主にサービス利用に関する基本利用料、成果報酬、成果報酬に関する当社手数料を集計請求し、またパートナーサイトが獲得した成果報酬の集計支払いを行います。「エーハチネット」又は「モバハチネット」では、各パートナーサイト別の成果を正確に集計し、一部のパートナーサイトによる不正請求の調査を厳格に行うことを含めて、信頼の獲得に努めております。

アフィリエイト・プログラムを利用する広告主は、広告目的が達成された場合に、その達成状況に応じて成果報酬（広告料）を支払えばよいという点を評価しており、また当社が運営している仲介型アフィリエイト広告サービスについては、システム構築等の費用負担なしにアフィリエイト・プログラムを利用できるという点も評価していると、当社では認識しています。

また広告主は当社のノウハウやサービスシステムの様々なレポート機能を活用することが可能です。一方パートナーサイトにとっては、複数の広告主から自分のサイトの内容に合った広告を選び、媒体のスペースを生かしたより高い収益獲得を目指すことが可能となっております。

(2) 自社媒体運営

SampleFan.com(サンプル情報サイト)等、会員制のサイトを中心に、会員に物販やサービス情報を提供するサイトを開発、運営しております。会員制の情報サイトにおいては、当社が会員を募集するとともに、コンテンツの作成や会員向けサービスを行うことにより各サイトの広告媒体としての価値を創出し、広告主に広告スペースの販売を行っております。また携帯向けアフィリエイトサービスの開始に伴い、これらPC用のサイトに加え、携帯用サイトの開発にも注力しております。「夕刊フジBlog（掲載記事連動ブログ形式モバイルサイト）」等消費者への情報提供や、「auken（モバイルポータルサイト）」等検索情報媒体の運営による新たな付加サービス提供を展開しております。

また広告販売に加え、各自社媒体は、アフィリエイト広告サービスにおけるパートナーサイトとして収益化を図っております。

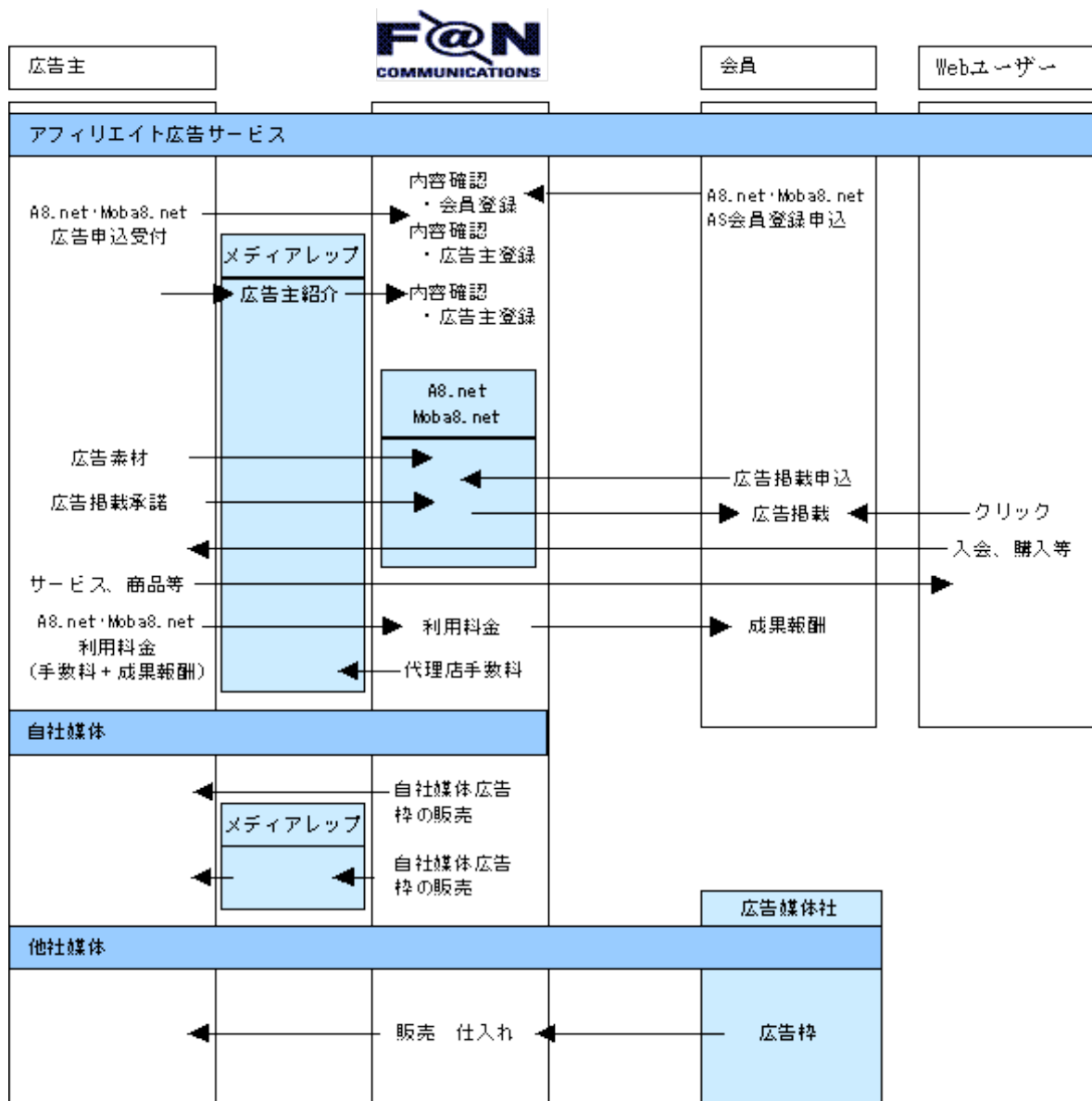
(3) 他社媒体広告販売

SEM（検索エンジンマーケティング）サービス提供会社のサービスを中心に、他社のサービス、広告の販売を行っております。

(4) その他売上

当社サービスに関する出版、セミナー等を行っております。

当社の事業系統図は以下のとおりであります。



メディアレップ

当社との契約に基づき、当社の運営するA8ネット及びMoba8ネットの広告主を募集し、広告主の為に、広告主契約の申込及びアフィリエイトプログラムへの参加を取り扱う代理店をいいます。

4【関係会社の状況】

該当事項はありません。

5【従業員の状況】

(1) 提出会社の状況

平成19年12月31日現在

従業員数(人)	平均年齢(才)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
112〔45〕	29.1	1.6	4,489

(注) 1. 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数(パートタイマー、人材派遣会社からの派遣社員を含みます)は、年間の平均人員を〔 〕外数で記載しております。

2. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

(2) 労働組合の状況

労働組合は結成されておりませんが、労使関係は円満に推移しております。

第2【事業の状況】

1【業績等の概要】

(1) 業績

当事業年度における経済は、原油価格の上昇に加え、米国で発生したサブプライムローン（低所得者向け住宅融資）問題が金融市場における市場心理の低下と信用不安をもたらしたことで、これまでの世界経済の堅調な成長持続に対する下振れリスクが懸念されております。

一方で、国内景気におきましては、好調な企業業績を背景とした設備投資の増加傾向が続いていること、雇用環境の改善により個人消費も堅調なことから、比較的順調に推移いたしました。

このような状況の中で当社の主要事業であるインターネットマーケティングサービス分野は、ADSLや光ファイバー等のブロードバンドの普及、携帯電話の定額料金制度導入等を背景に、インターネット利用者やブログ（日記形式のWebサイト）開設者の増加、電子商取引推進企業の広がりとともに、今後も引き続き拡大が予測されております。

当事業年度におきましては、パソコン経由のインターネット利用者の伸び悩みや一部業界における広告予算の縮小があり厳しい状況もありましたが、サービス品質向上を重視したプロモーション展開や、平成18年3月より開始した携帯電話向けアフィリエイトサービスの強化に努めてまいりました。

こうした経営環境の中で、当事業年度の売上高は、5,687,521千円（前期比6.0%増）となりました。また、営業利益は、948,949千円（前期比3.3%減）、経常利益は973,435千円（前期比2.2%減）となり、当期純利益は投資有価証券の評価損等の特別損失の計上及び税金費用の計上により485,904千円（前期比17.6%減）となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当事業年度末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は前期末比84,620千円減少し、1,504,936千円となりました。

当事業年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの増減要因は、以下のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当事業年度の営業活動によるキャッシュ・フローは、608,449千円の収入となり、前期比10,211千円の収入減となりました。これは、主に税引前当期純利益を840,722千円計上したことによる資金の増加がありましたが、法人税等の支払が432,445千円あったことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当事業年度の投資活動によるキャッシュ・フローは、422,197千円の支出となり、前期比1,627,024千円の支出減となりました。これは、主に投資有価証券の償還による収入が3,089,000千円ありましたが、投資有価証券の取得による支出が3,484,584千円あったことによるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当事業年度の財務活動によるキャッシュ・フローは、270,872千円の支出となり、前期比295,735千円の支出増となりました。これは、主に自己株式の取得が181,235千円あったこと、配当金の支払が113,204千円あったことによるものであります。

2【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

該当事項はありません。

(2) 受注状況

該当事項はありません。

(3) 販売実績

当事業年度の販売実績をサービス区別に示すと、次のとおりであります。

サービス区分	当事業年度 (自平成19年1月1日 至平成19年12月31日)	前年同期比(%)
パソコン向けアフィリエイト広告サービス(千円)	4,955,614	97.8
携帯向けアフィリエイト広告サービス(千円)	527,081	453.4
自社媒体運営(千円)	131,270	160.9
他社媒体広告販売(千円)	72,302	71.3
その他売上(千円)	1,252	55.5

サービス区分	当事業年度 (自 平成19年1月1日 至 平成19年12月31日)	前年同期比(%)
合計(千円)	5,687,521	106.0

(注) 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

3【対処すべき課題】

当社をとりまく環境は、業界内の競争や市場動向の変化等、厳しい状況が予想されますが、当社におきましては経営基盤の確立とさらなる業容拡大のため、下記の項目を対処すべき課題として取り組みを進めております。

1．業界内における地位の確立

主力事業であるアフィリエイト広告サービスは、広告主、メディアとも次第に認知度が高まり、今後さらなる成長が期待される一方、新規参入や競争の激化、パソコン経由のインターネット利用者の伸び悩みといった課題も出て来つつあります。当社では、引き続き顧客基盤を広げるため営業体制の強化を図り、サービスの改善とブランドイメージの向上・浸透に努め、より効率的な顧客獲得体制を整備してまいります。特に大きな拡大を見込んでいる携帯向けアフィリエイト広告サービス事業においては、設備及び人員等に対し積極的に投資を行い、業界内における地位を確立させていく方針であります。

2．主力事業におけるサービス改善

主力事業であるアフィリエイト広告サービスについては、これまでに多くの広告主及びメディアに利用いただき、サービス規模も拡大しつつあります。しかしながら、規模の拡大に伴い、システムの改善や顧客満足度の向上がサービスの差別化において必要不可欠となるため、今後も継続的なユーザビリティの改善に取り組む方針であります。

3．周辺事業の拡大

アフィリエイト広告サービス以外の事業については、現在のところ規模も小さく収益化の段階にいたっておりません。パソコンベース、携帯ベースの自社媒体の開発、運営などアフィリエイト広告サービスの知名度やトラフィックを生かした周辺ビジネスの拡大に取り組む方針であります。

4．システム及び内部管理体制のさらなる強化

当社の業容拡大を支えていくためには、急激に増加しているトラフィックや取引データを管理するシステムを、安定的かつ効率的に拡張するための技術開発及び運用体制の確立に注力すること。外部からの不正アクセスを防止し、取引データ、顧客企業等の情報及び個人情報保全のため、さらなるシステムの安全性強化の施策を講じること。また当社全体としての業況推移を常時正確に把握し適時・適切に経営判断へ反映させていくことが、今後さらに重要となってくると考えております。こうした観点から、一層のシステム投資を進めていくとともに、情報開示やコンプライアンス維持を含めた内部管理体制の充実を図る方針であります。

5．人材の確保・育成

業容拡大とともに、営業部門・技術及び事業開発部門・管理部門の人材確保とともに、さらなるサービス向上のため、広告主に対するコンサルティング能力の向上、ノウハウの蓄積、スキルの向上等人材の育成がきわめて重要と考えております。当社といたしましては、従来から実施している社員教育や管理職研修の拡充による人材育成の強化を進めてまいります。

4【事業等のリスク】

以下には、当社の事業展開上のリスク要因となる可能性があると考えられる主な事項を記載しております。また、当社として必ずしも特に重要なリスクとして考えていない事項についても、投資判断の上で、あるいは当社の事業活動を理解する上で重要と考えられる事項については、投資家及び株主に対する積極的な情報開示の観点から記載しております。

なお、以下の記載における将来に関する事項は、当事業年度末時点において、当社が想定される範囲内で記載したものであり、全てのリスク要因が網羅されているわけではありません。

(1) 当社の事業内容に係るリスクについて

業界環境の変化について

インターネット関連分野における技術革新は著しく進展しております。インターネットを利用して事業を運営している会社は、常に業界動向、技術革新、顧客ニーズの変化等に即座に対応する必要があります。そのため、現在利用している技術や業界標準が急激に変化する事も予想され、このような変化に対応すべく追加的に支出を行なう可能性があります。当社が、著しい技術革新や業界標準の変化に時間を要した場合には競争力の低下を招く可能性があります。

当社の属するインターネット広告業界は、インプレッション型からクリック保証型、そして成果型へと短期間で新しい広告手法が次々と開発されております。当社が行なっております成果型の広告手法は、現時点では費用対効果が最も明確な広告手法であります。成果型に替わる新しい広告手法が開発された場合には、成果型の広告手法が陳腐化し、当社の事業および業績に重要な影響を及ぼす可能性があります。

また当社の主力サービスであるアフィリエイト広告サービス業界についても、日本における歴史は浅く、現在、普及段階にあると認識しています。従ってアフィリエイト広告サービスが、今後も過去と同様の伸びを示すという保証はありません。

競争について

当社が事業を展開するアフィリエイト広告サービスにおける競争は将来的に激化する可能性があります。

アフィリエイト広告サービス業界において、当社は比較的早期に参入した会社であり、パートナーサイトの獲得数においても優位に立っていると認識しています。パートナーサイトが多いことは、企業（広告主）を獲得する際に、有利に働いていると当社では認識しています。この他にも、システムの改良、ノウハウの蓄積等、当社の過去の業績には先行者メリットとしての要因が含まれている可能性があります。

しかし、当社が、将来に亘っても、アフィリエイト広告サービスにおいて優位性を構築・維持・発揮し、一定の地位を確保・継続できるという保証はなく、また、競争の結果、当社の売上、収益が低下する可能性があります。当社の事業および業績に影響を及ぼす可能性があります。

特定事業への依存

当社は、インターネット上で運営するパソコン向けアフィリエイト広告サービスの売上が主体となっており、当事業年度において87.1%を占めております。今後もパソコン向けアフィリエイト広告サービスへの依存は高い水準で推移する予定であります。このように、特定事業への依存度が高い状況は、外的要因及び内的要因により本事業の業績変動が全社の業績に大きな影響を及ぼす可能性があります。

今後の事業展開について

当社は第4期（平成14年12月期）から自社媒体運営事業を開始しております。自社媒体運営事業は物販やサービス情報を提供する会員制サイトや携帯向けのポータルサイトが中心であり、会員やサイトへの通信量を増加させることにより媒体の価値を高め、媒体に出稿する広告主から広告料金を徴収する仕組みとなっております。ただし当事業年度における本事業の売上は131,270千円と、未だ収益に大きく寄与するには至っておりません。

また、当社は第8期（平成18年12月期）より新たに携帯向けアフィリエイト広告サービス「モバハチネット」を開始しております。現状は、当社の主力サービス「エーハチネット」との並行稼働により、利用広告主企業の獲得を効率的に行い、比較的堅調に推移していると当社では認識しておりますが、当社は競争と比較して後発企業であり、将来的に優位に立てるという保証はありません。

当社は今後、積極的にこれら事業の拡大に取り組んでまいりますが、事業計画を実現するため、システム投資や人件費、広告宣伝費等の追加的な支出が発生し、一時的に利益率が低下する可能性があります。また、予測とは異なる状況の発生などによりこれら事業の展開が計画通りに進まない場合、投資を回収できず、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

法的規制について

現時点において、当社の主力事業であるアフィリエイト広告サービスに関連して、事業継続に重要な影響を及ぼす法的規制はないものと認識しております。しかし、インターネットの利用者及び事業者を規制対象とする法令、行政指導、その他の規制等が制定された場合、当社の事業および業績に重要な影響を及ぼす可能性があります。

また、当社ネットワーク上で広告配信、成果のトラッキング及び不正行為防止のために使用している技術（クッキーの使用等）が規制、制限された場合には、代替手段の開発に多額の投資が必要となり、当社の事業および業績に重要な影響を及ぼす可能性があります。

自社でアフィリエイト・プログラムを運用する企業が増加するリスクについて

当社はアフィリエイト広告サービスを、当社が広告主とパートナーサイトを仲介するアフィリエイトサービスプロバイダー（ASP）となる形で運営しております。このサービスは、広告主にとってはシステム構築等のコスト負担が少なく、また、媒体への支払代行業務および媒体の不正監視業務等を行なうことで、広告主のアフィリエイト・プログラムをサポートしております。

また広告主は当社のノウハウやサービスシステムの様々なレポート機能を活用することが可能です。

しかしながら、今後自社でアフィリエイト・プログラムを運用する企業が増加した場合、当社の広告主が減少することにより当社の売上、収益が低下する可能性があり、当社の事業および業績に影響を及ぼす可能性があります。

設備及びネットワークの安定性について

インターネットは重要な社会基盤として社会全般に浸透してきており、そのネットワークは継続的に拡大を続けております。そのため、当社設備およびネットワークは24時間稼働、年中無休での運用が求められております。当社は、アフィリエイト・プログラムの運営サービスをWeb上で提供しているため、システムに支障が生じることは、サービス全般の停止を意味するため、設備面での電源の二重化や日々の設備およびネットワークの監視など、障害の発生を未然に防止するべく最大限の取り組みを行っております。

しかしながら、地震、火事などの災害のほか、コンピュータウイルスやハッカーなどの行為、その他予期せぬ重大な事象の発生により、万一、当社の設備又はネットワークが利用できなくなった場合には、サービス停止に伴う信用の低下を引き起こし、顧客の解約はもちろん今後の新規顧客の獲得に影響が生じることが考えられ、当社の事業および業績に重要な影響を及ぼす可能性があります。

情報のセキュリティ管理について

当社は、「エーハチネット」および自社媒体でのサービスの提供にあたり会員情報や銀行口座の情報等の個人情報を取得し、利用しているため、「個人情報の保護に関する法律」が定める個人情報取扱事業者としての義務が課されております。また、当社はアフィリエイト・プログラムの運営サービスの提供にあたり、当社のアフィリエイト広告サービスは、成果報酬のトラフィックや取引データを当社のサーバで管理し、インターネットを通じて広告主企業やアフィリエイトサイトに提供しております。また、当社の運営する自社媒体では、サービス運営のため多数の個人会員情報を当社のサーバで管理しております。

取引データの管理や、社内における顧客企業等の情報及び個人情報についてもその取扱には細心の注意を払い、法令を遵守するほか入退室管理、ハードウェアやネットワーク管理について最大限の取り組みを行っております。

しかしながら、以上のような当社の努力にもかかわらず、万一、外部からの不正アクセスなどにより情報の外部流出等が発生した場合には、当社への損害賠償の請求や当社の社会的信用の失墜等によって、当社の事業や業績に重要な影響を及ぼす可能性があります。

有害コンテンツを含む広告及びパートナーサイトに対する規制について

当社が運営しているアフィリエイト広告サービス「エーハチネット」および「モバハチネット」は、広告主及びパートナーサイトの募集において、プログラムへの参加時に審査を行なうなど、規約を設けて参加手続面での管理を実施しております。また、参加時だけでなくその後も当社の社員がサイトの内容など規約の遵守状況を定期的にモニターする体制をとっており、規約に違反する行為が見られた場合には、警告や契約解除などの措置をとっております。

当社では会員規約等により独自の基準を設けており、法令や公序良俗に反する広告およびパートナーサイトに掲載されているコンテンツを排除するように規制並びに管理をしております。また、当該規制の対象となる広告並びにパートナーサイトの内容については「特定商取引に関する法律」等を念頭におき、広告主が運営するサイト並びにパートナーサイトの内容について定期的な確認を行い、当社の基準に反する広告コンテンツ等が存在している場合は、広告主並びにパートナーサイト運営者に対して警告を行い排除に努めております。当社が行なった警告に従わない場合は契約の解除等の対策を行っております。

しかしながら、広告主並びにパートナーサイト運営者が法令や公序良俗に反する広告や商品・サービスの提供、コンテンツの掲載を継続する事により、当社の信用が低下し、事業および業績に影響を及ぼす可能性があります。

パートナーサイトの監視体制について

当社ではパートナーサイトの品質管理のために、パートナーサイトの成果報酬の不正請求等の監視を実施しております。プログラムへの参加時に審査を行なうなど、規約を設けて参加手続面での管理を実施しているほか、その後も当社の社員がパートナーサイトの成果報酬に関する調査を定期的に行うことで不正請求を排除し、広告主とパートナーサイトを仲介するアフィリエイトサービスプロバイダーとしての信頼獲得に努めております。故意もしくは悪意により悪質な違反行為を行っているとは判断される場合は、即時に契約解除することもあります。

しかしながら、予期せぬ要因によりこれらの対応に不備が生じ、広告主からクレームを受けた場合は当社の信用が低下し、また損害賠償を請求された場合には当社の事業および業績に影響を及ぼす可能性があります。

他社の知的財産権を侵害するリスクについて

アフィリエイト広告サービスというビジネスモデルについては、アマゾンドットコム社が米国において、自社運営型のアフィリエイト広告サービスについて特許権を取得しています。

また当社の調査によると、同業他社の関係者が日本国内において仲介型アフィリエイト広告サービスについての特

許申請を行っています。当社は専門家への調査依頼に基づき、当該申請中の特許権が成立したとしても、当社が行っているサービスとは技術的に手法が異なるため、当社の事業に与える影響はないと確信しております。しかし万が一、当該特許が成立し、さらに当社の事業が当該特許権に抵触すると判断された場合には、当社の事業および業績に重要な影響及ぼす可能性があります。

(2) 当社の事業体制について

特定経営者への依存および人材確保に係るリスクについて

当社では、事業拡大に伴って優秀な人材の確保とその育成は重要な課題となっており、人材採用と人材育成に関する各種施策を継続的に講じております。しかしながら、十分な人材確保が困難になった場合や、人材が外部に流出した場合には、当社の業務に支障をきたすおそれがあります。

また当社では、代表取締役を含む役員、幹部社員等の専門的な知識、技術、経験を有している役職員が、各部門の経営、業務執行について重要な役割を果たしており、特定の分野についてはこれらの人物のノウハウに依存している面があります。このため当社では、特定の人物に過度に依存しない体制を構築すべく経営組織および技術スタッフの強化を図っておりますが、これらの役職員が何らかの理由で退任、退職し、後任者の採用が困難になった場合には、当社の事業戦略や業績に影響を及ぼす可能性があります。

内部管理体制について

当社は、企業価値の持続的な増大を図るにはコーポレート・ガバナンスが有効に機能することが不可欠であるとの認識のもと、業務の適正性を確保し、財務報告の信頼性を高め、さらに法令遵守を徹底することを目的に、社長直轄組織である社長室が内部監査を実施する等、内部管理体制の充実に努めております。しかしながら、事業の拡大により、十分な内部管理体制の構築が追いつかないという状況が生じる場合には、平成21年12月期から導入されることが決定している金融商品取引法に基づく財務報告に係る内部統制の評価(いわゆる日本版SOX法)への対応等での支障が生じる可能性や当社の事業および業績に影響を及ぼす可能性があります。

(3) その他

投融資に係るリスクについて

当社では事業方針に則り、インターネット関連の企業に対して投資を実施しております。これらの投資は、それぞれの投資先企業と当社との事業上のシナジー効果等を期待して投資を実行しておりますが、投資先企業の今後の業績の如何によっては、これらの投資が回収できなくなることや減損適用による評価損が発生し、当社の業績および財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

また当社では、今後の事業拡張に備えるため、手許流動性を比較的高い水準で維持しております。当社では事業への投資の原資として運用資金を保有しているため、安全性の高い公社債や抵当証券等の金融商品を中心に投資を行っております。しかし、債券市場や株式市場等の金融市場の急激な変化、または保有する公社債や抵当証券の信用リスクの増大に伴い、当社が保有する金融資産に損失が発生し、当社の業績および財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

ストック・オプションによる株式の希薄化について

当社はストック・オプション制度を採用しております。同制度により発行された新株予約権による潜在株式数は平成19年12月31日現在で合計11,454株となり、発行済株式数および新株予約権による潜在株式数の合計の10.3%を占めております。これらの新株予約権の行使が行われた場合には、当社の1株当たりの株式価値は希薄化する可能性があります。また、今後も優秀な人材確保のために、同様のインセンティブプランを継続して実施していくことを検討しております。従いまして、今後付与される新株予約権の行使が行われた場合には、当社の1株当たりの株式価値は希薄化する可能性があります。

当該制度の内容は次のとおりであります。

項目	新株予約権	新株予約権	新株予約権	新株予約権	新株予約権
定時株主総会決議	平成15年3月28日	平成16年3月30日	平成17年3月30日	平成18年3月30日	平成19年3月29日
新株予約権の数(注)1	344個	113個	250個	692個	372個
目的となる株式の種類及び数(注)1	普通株式 6,880株	普通株式 2,260株	普通株式 1,250株	普通株式 692株	普通株式 372株
新株予約権行使時の払込金額(注)1	10,000円	10,000円	20,000円	779,196円	184,000円
行使請求期間	平成17年4月1日から平成25年3月27日まで	平成18年4月1日から平成26年3月29日まで	平成19年4月1日から平成27年3月29日まで	平成20年4月1日から平成25年3月31日まで	平成21年4月1日から平成25年3月31日まで
行使の条件及び譲渡に関する事項	<p>(1)行使条件 本新株予約権の行使は、行使しようとする本新株予約権又は権利者について新株予約権の要項に定める消却事由が発生していないことを条件とし、消却事由が生じた新株予約権の行使は認められないものとする。ただし、取締役会が特例として承認した場合はこの限りでない。</p> <p>当社株式が日本国内の証券取引所に上場又は日本証券業協会に店頭登録された場合に限り、新株予約権を行使することができる。</p> <p>(2)相続権利者が死亡した場合、権利者の相続人が新株予約権を相続するものとする。</p> <p>(3)譲渡等新株予約権を譲渡し、又は担保に供することはできない。</p>	<p>(1)行使条件 本新株予約権の行使は、行使しようとする本新株予約権又は権利者について新株予約権の要項に定める消却事由が発生していないことを条件とし、消却事由が生じた新株予約権の行使は認められないものとする。ただし、取締役会が特例として承認した場合はこの限りでない。</p> <p>当社株式が日本国内の証券取引所に上場又は日本証券業協会に店頭登録された場合に限り、新株予約権を行使することができる。</p> <p>(2)相続権利者が死亡した場合、権利者の相続人が新株予約権を相続するものとする。</p> <p>(3)譲渡等新株予約権を譲渡し、又は担保に供することはできない。</p>	<p>(1)行使条件 本新株予約権の行使は、行使しようとする本新株予約権又は権利者について新株予約権の要項に定める消却事由が発生していないことを条件とし、消却事由が生じた新株予約権の行使は認められないものとする。ただし、取締役会が特例として承認した場合はこの限りでない。</p> <p>当社株式が日本国内の証券取引所に上場された場合に限り、新株予約権を行使することができる。</p> <p>(2)相続権利者が死亡した場合、権利者の相続人が新株予約権を相続するものとする。</p> <p>(3)譲渡等新株予約権を譲渡し、又は担保に供することはできない。</p>	<p>(1)行使条件 本新株予約権の行使は、行使しようとする本新株予約権又は権利者について新株予約権の要項に定める消却事由が発生していないことを条件とし、消却事由が生じた新株予約権の行使は認められないものとする。ただし、取締役会が特例として承認した場合はこの限りでない。</p> <p>(2)相続権利者が死亡した場合、権利者の相続人は新株予約権を相続できない。ただし、取締役会が特例として承認した場合はこの限りでない。</p> <p>(3)譲渡等新株予約権を譲渡し、又は担保に供することはできない。</p>	<p>(1)行使条件 本新株予約権の行使は、行使しようとする本新株予約権又は権利者について新株予約権の要項に定める消却事由が発生していないことを条件とし、消却事由が生じた新株予約権の行使は認められないものとする。ただし、取締役会が特例として承認した場合はこの限りでない。</p> <p>(2)相続権利者が死亡した場合、権利者の相続人は新株予約権を相続できない。ただし、取締役会が特例として承認した場合はこの限りでない。</p> <p>(3)譲渡等新株予約権を譲渡し、又は担保に供することはできない。</p>

(注)1. 平成17年3月9日をもって株式1株を4株に、平成18年3月1日をもって株式1株を5株にそれぞれ分割しております。なお、上記新株予約権の目的となる株式の数及び新株予約権の行使時の払込金額は当該株式分割後の数値で記載しております。

- 平成19年12月31日現在における未行使の新株予約権について記載しております。
- 上記表のほか、平成20年3月28日開催の定時株主総会において、会社法第236条、第238条及び第239条の規定に基づき、当社取締役及び監査役、当社従業員及び当社子会社の取締役及び従業員に対して、ストック・オプションとして新株予約権を発行する件を決議しております。
- 新株予約権の内容については、「第4 提出会社の状況 1 株式等の状況 (8)ストックオプション制度の内容」に記載しております。

5【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

6【研究開発活動】

該当事項はありません。

7【財政状態及び経営成績の分析】

1．財政状態の分析

当社の財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。また、この財務諸表作成にあたり必要と思われる会計上の見積りについては、合理的な基準に基づいて実施しております。財政状態及び経営成績の分析は以下のとおりです。なお、本項に記載した将来に関する事項は、本有価証券報告書提出日現在において当社が判断したものであり、将来生じる実際の結果と大きく異なる可能性があります。

(1) 流動資産

当事業年度末における流動資産の残高は、3,837,846千円（前事業年度末は3,709,655千円）となり、128,191千円の増加となりました。増加の主な要因は、売掛金が535,477千円（前事業年度末は575,923千円）と40,446千円減少しましたが、有価証券が1,787,051千円（前事業年度末は有価証券875,466千円、抵当証券700,000千円）と211,585千円増加したことによるものであります。

(2) 固定資産

当事業年度末における固定資産の残高は、862,362千円（前事業年度末は823,810千円）となり、38,552千円の増加となりました。増加の主な要因は、投資有価証券が525,392千円（前事業年度末は610,625千円）と85,232千円減少しましたが、ソフトウェアが75,844千円（前事業年度末は47,581千円）と28,263千円増加したこと、ソフトウェア仮勘定が67,842千円（前事業年度末は14,436千円）と53,405千円増加したこと、繰延税金資産が49,742千円（前事業年度末は3,859千円）と45,882千円増加したことによるものであります。投資有価証券の減少は満期日が1年以内の公社債等を有価証券に振替えた為であり、ソフトウェアの増加はプログラムのシステム購入によるものであり、ソフトウェア仮勘定の増加は自社サービス開発の増加によるものであります。また、繰延税金資産の増加は当社出資先企業の投資有価証券評価損の計上によるものであります。

(3) 流動負債

当事業年度末における流動負債の残高は、1,281,150千円（前事業年度末は1,385,594千円）となり、104,443千円の減少となりました。減少の主な要因は、未払法人税等が196,935千円（前事業年度末は233,308千円）と36,372千円減少したこと、前受金が145,910千円（前事業年度末は210,188千円）と64,277千円減少したことによるものであります。未払法人税等の減少は、利益縮小に伴い減少したことによるものであります。前受金の減少は、料金体系の変更による基本料金前受額の減少によるものであります。

(4) 固定負債

当事業年度末における固定負債の残高は、73,568千円（前事業年度末は35,316千円）となり、38,252千円の増加となりました。増加の要因は、預り保証金が73,568千円（前事業年度末は35,316千円）と38,252千円増加したことにより、預り保証金の増加は、一部広告主の保証金取扱高の増額によるものであります。

(5) 純資産

当事業年度末における純資産の残高は、3,345,490千円（前事業年度末は3,112,555千円）となり、232,935千円増加いたしました。増加の主な要因は、自己株式の取得により180,874千円減少しましたが、平成19年4月10日にストック・オプションの行使をしたことにより、資本金及び資本準備金がそれぞれ18,850千円の増加及び当期純利益485,904千円の計上によるものであります。

2．経営成績の分析

当事業年度における経済は、原油価格の上昇に加え、米国で発生したサブプライムローン（低所得者向け住宅融資）問題が金融市場における市場心理の低下と信用不安をもたらしたことで、これまでの世界経済の堅調な成長持続に対する下振れリスクが懸念されております。

一方で、国内景気におきましては、好調な企業業績を背景とした設備投資の増加傾向が続いていること、雇用環境の改善により個人消費も堅調なことから、比較的順調に推移いたしました。

このような状況の中で当社の主要事業であるインターネットマーケティングサービス分野は、ADSLや光ファイバー等のブロードバンドの普及、携帯電話の定額料金制度導入等を背景に、インターネット利用者やブログ（日記形式のWebサイト）開設者の増加、電子商取引推進企業の広がりとともに、今後も引き続き拡大が予測されております。

当事業年度におきましては、パソコン経由のインターネット利用者の伸び悩みや一部業界における広告予算の縮小があり厳しい状況もありましたが、サービス品質向上を重視したプロモーション展開や、平成18年3月より開始した携帯電話向けアフィリエイトサービスの強化に努めてまいりました。

こうした経営環境の中で、当事業年度の売上高は、5,687,521千円（前期比6.0%増）となりました。また、営業利益は、948,949千円（前期比3.3%減）、経常利益は973,435千円（前期比2.2%減）となり、当期純利益は投資有価証券の評価損等の特別損失の計上及び税金費用の計上により485,904千円（前期比17.6%減）となりました。

(1) 売上高

当事業年度における各サービス区分別の売上高は、下記のとおりです。

当事業年度はパソコン向けアフィリエイト広告サービスが対前期比マイナスとなりましたが携帯向けアフィリエイト広告サービスの売上が伸び、総売上高は5,687,521千円（前期比6.0%増）となりました。総売上高に占める各サービス区分ごとの売上高及び構成比は、パソコン向けアフィリエイト広告サービスが4,955,614千円で87.1%（前期比7.3ポイント減）、携帯向けアフィリエイト広告サービスが527,081千円で9.3%（前期比7.1ポイント増）、自社媒体運営が131,270千円で2.3%（前期比0.8ポイント増）、他社媒体広告販売が72,302千円で1.3%（前期比0.6ポイン

ト減)、その他売上が1,252千円で0.0%(前期比変動なし)となっております。

サービス区分	平成18年12月期		平成19年12月期	
	金額(千円)	構成比(%)	金額(千円)	構成比(%)
パソコン向けアフィリエイト広告サービス	5,066,387	94.4	4,955,614	87.1
携帯向けアフィリエイト広告サービス	116,244	2.2	527,081	9.3
自社媒体運営	81,571	1.5	131,270	2.3
他社媒体広告販売	101,472	1.9	72,302	1.3
その他売上	2,255	0.0	1,252	0.0
合計	5,367,930	100.0	5,687,521	100.0

なお、主力サービスであるアフィリエイト広告サービスにおける当事業年度末の利用広告主数(稼動広告主ID数)、参加メディア数(登録アフィリエイトサイト数)は、下記のとおりであります。

サービス	区分	平成18年12月期末	平成19年12月期末
パソコン向け アフィリエイト広告サービス 「エーハチネット」	稼動広告主ID数	2,572	2,467
	登録アフィリエイトサイト数	388,996	565,475
携帯向け アフィリエイト広告サービス 「モバハチネット」	稼動広告主ID数	254	499
	登録アフィリエイトサイト数	14,121	33,577
当社 アフィリエイト広告サービス 合計	稼動広告主ID数	2,826	2,966
	登録アフィリエイトサイト数	403,117	599,052

(2) 売上原価

当事業年度における売上原価は3,353,780千円(前期比2.2%増)、売上総利益は2,333,740千円(前期比11.9%増)となりました。アフィリエイト広告サービスにおける利益率の高いエントリー型広告(A8BUZZ)の比率が高くなり、売上原価率は前年の61.2%から59.0%へと2.2ポイント改善いたしました。この結果、売上総利益率も、2.2ポイント改善し、41.0%となりました。

(3) 販売費及び一般管理費

販売費及び一般管理費は1,384,791千円(前期比25.5%増)となりました。販売費及び一般管理費の主な内訳は給与手当479,933千円(前期比29.7%増)、販売手数料151,850千円(前期比20.2%増)、広告宣伝費131,576千円(前期比39.3%増)、地代家賃119,800千円(前期比44.7%増)であります。給与手当の増加の主な要因は、アフィリエイト広告サービスの規模拡大に伴う人員増加があったこと、販売手数料の増加の主な要因は、販売代理店の売上比率が増加したこと、広告宣伝費の増加の主な要因は、自社媒体のauken(モバイルポータルサイト)の集客の為にリスティング広告費用増加があったこと、地代家賃の増加の主な要因は、人員増加に伴い事務所を増床したことによるものであります。

(4) 経常利益

経常利益は、営業利益率が前期と比べ1.6ポイント減少しましたが、有価証券利息17,000千円、投資有価証券売却益4,591千円を計上したことにより973,435千円(前期比2.2%減)となりました。売上高経常利益率は1.4ポイント減少し、17.1%となりました。

(5) 税引前当期純利益・当期純利益

税引前当期純利益は、出資先企業の投資有価証券について減損処理を実施した結果、840,722千円(前期比15.0%減)となりました。また当期純利益は485,904千円(前期比17.6%減)となりました。これにより、売上高当期純利益率は2.5ポイント減少し、8.5%となりました。1株当たり当期純利益は、前事業年度の6,170円27銭から当事業年度は4,965円41銭となりました。

なお、キャッシュ・フローの分析は、「第2 事業の状況 1 業績等の概要(2) キャッシュ・フローの状況」の項目をご参照ください。

第3【設備の状況】

1【設備投資等の概要】

当事業年度中において実施いたしました当社の設備投資の総額は127,908千円であります。その主なものとして、自社利用ソフトウェア制作費等として105,966千円、サーバー設備増強として15,548千円の設備投資を実施しました。なお、当事業年度において、重要な設備の除却、売却等はありません。

2【主要な設備の状況】

当社における主要な設備は、次のとおりであります。

平成19年12月31日現在

事業所名 (所在地)	設備の内容	帳簿価額(千円)					従業員数 (人)
		建物	工具器具備品	ソフトウェア	ソフトウェア 仮勘定	合計	
本社 (東京都渋谷区)	本社機能及び 基幹システム	14,870	49,837	75,844	67,842	208,395	112(45)

(注) 1. 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

2. 建物は賃借物件であり、当事業年度における賃借料の合計は124,569千円であります。

3. 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数は年間の平均人員を()外数で記載しております。

3【設備の新設、除却等の計画】

当社の設備投資については、事業計画をもとに、データ処理量、業界動向、投資効率を総合的に勘案して実施しております。なお、平成19年12月31日現在における重要な設備の新設、改修計画は次のとおりであります。

(1) 重要な設備の新設

事業所名 (所在地)	設備の内容	投資予定金額		資金調達 方法	着手及び完了予定年月		完成後の 増加能力
		総額 (千円)	既支払額 (千円)		着手	完了	
本社 (東京都渋谷区)	アフィリエイト広告サービスシステム開発及びネットワーク設備増強	70,570	-	自己資金	20.1	20.12	-
本社 (東京都渋谷区)	自社媒体運営システム開発及びネットワーク設備増強	7,500	-	自己資金	20.1	20.12	-
本社 (東京都渋谷区)	社内業務関係システム開発及び設備増強	89,400	-	自己資金	20.1	20.12	-

(注) 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 重要な設備の除却等

該当事項はありません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	300,000
計	300,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数 (株) (平成19年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成20年3月28日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	99,345	99,345	ジャスダック証券取引所	-
計	99,345	99,345	-	-

(注)「提出日現在発行数」欄には、平成20年3月1日からこの有価証券報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2)【新株予約権等の状況】

旧商法に基づき発行した新株予約権は、次のとおりであります。

(平成15年3月28日の定時株主総会決議により平成16年3月10日発行)

区分	事業年度末現在 (平成19年12月31日)	提出日の前月末現在 (平成20年2月29日)
新株予約権の数(個)	344 (注)4	同左
新株予約権のうち自己新株予約権の数	-	同左
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	6,880 (注)1,4,5	同左
新株予約権の行使時の払込金額(円)	10,000 (注)5	同左
新株予約権の行使期間	平成17年4月1日から 平成25年3月27日まで	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 10,000 (注)5 資本組入額 5,000 (注)5	同左 同左
新株予約権の行使の条件	(注)3	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	(注)3	同左
代用払込みに関する事項	-	-
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	当社が完全子会社となる株式交換又は株式移転を行う場合は、新株予約権に係る義務を、当該株式交換又は株式移転による完全親会社となる会社に承継させる。	同左

(注)1. 当社が株式分割又は株式併合を行う場合、次の算式により目的となる株式の数を調整し、調整の結果生じる1株の100分の1未満の端数については、これを切り捨てます。

調整後株式数 = 調整前株式数 × 分割・併合の比率

2. 当社が株式の分割及び時価を下回る価額で新株を発行又は自己株式の処分(新株予約権、平成14年4月1日改正前旧商法第280条ノ19の規定に基づく新株引受権の行使による場合を除く)をするときは、次の算式により発行価額を調整し、調整による1円未満の端数は切り上げます。その他、新株予約権(その権利行使により発行される株式の発行価額が、時価を下回る場合に限る。)を発行する場合についても、これに準じて行使価額は調整されます。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新発行株式数} \times 1 \text{株当たり払込金額}}{\text{分割} \cdot \text{新規発行前の株価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新発行株式数}}$$

3. 新株予約権の行使に係わる行使の条件、譲渡に関する事項は次のとおりであります。

(1) 新株予約権の行使の条件

新株予約権の割当を受けたものは、権利行使時においても、当社又は当社の子会社の取締役もしくは従業員の地位にあることを要す。ただし、任期満了による退任、定年退職その他正当な理由のある場合はこの限りでない。

新株予約権の譲渡、質入その他の処分は認めない。

新株予約権者は、当社普通株式にかかる株券が上場もしくは店頭登録された場合に限り、新株予約権を行使することができる。

その他の条件については、株主総会及び取締役会決議に基づき、当社と新株予約権の割当を受けた者との間で締結する「新株予約権付与契約書」に定めるところによる。

(2) 新株予約権の消却

新株予約権者が権利行使をする前に、当社又は子会社の取締役もしくは従業員の地位喪失により新株予約権を行使できなかった場合、当該新株予約権については無償で消却することができるものとする。

(3) 新株予約権の譲渡制限

新株予約権を譲渡する場合は、当社取締役会の承認を要するものとする。

4. 新株予約権の数、新株予約権の目的となる株式の数は、特別決議による新株発行予定数から、退職等による権利を喪失した数を控除した数のことであります。
5. 平成17年3月9日付で1株を4株、平成18年3月1日付けで1株を5株の割合をもって株式の分割を行っており、上記の表に記載の新株予約権の目的となる株式の数、払込金額、発行価格及び資本組入額は調整後の数を記載しております。

(平成16年3月30日の定時株主総会決議により平成16年12月22日発行)

区分	事業年度末現在 (平成19年12月31日)	提出日の前月末現在 (平成20年2月29日)
新株予約権の数(個)	113 (注) 4	同左
新株予約権のうち自己新株予約権の数	-	同左
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	2,260 (注) 1, 4, 5	同左
新株予約権の行使時の払込金額(円)	10,000 (注) 5	同左
新株予約権の行使期間	平成18年4月1日から 平成26年3月29日まで	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 10,000 (注) 5 資本組入額 5,000 (注) 5	同左 同左
新株予約権の行使の条件	(注) 3	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	(注) 3	同左
代用払込みに関する事項	-	-
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	当社が完全子会社となる株式交換又は株式移転を行う場合は、新株予約権に係る義務を、当該株式交換又は株式移転による完全親会社となる会社に承継させる。	同左

(注) 1. 当社が株式分割又は株式併合を行う場合、次の算式により目的となる株式の数を調整し、調整の結果生じる1株の100分の1未満の端数については、これを切り捨てます。

調整後株式数 = 調整前株式数 × 分割・併合の比率

2. 当社が株式の分割及び時価を下回る価額で新株を発行又は自己株式の処分(新株予約権、平成14年4月1日改正前旧商法第280条ノ19の規定に基づく新株引受権の行使による場合を除く)をするときは、次の算式により発行価額を調整し、調整による1円未満の端数は切り上げます。その他、新株予約権(その権利行使により発行される株式の発行価額が、時価を下回る場合に限り。)を発行する場合についても、これに準じて行使価額は調整されます。

$$\text{調整後行使価額} = \frac{\text{調整前行使価額} \times \left(\text{既発行株式数} + \frac{\text{新発行株式数} \times 1 \text{株当たり払込金額}}{\text{分割・新規発行前の株価}} \right)}{\text{既発行株式数} + \text{新発行株式数}}$$

3. 新株予約権の行使に係わる行使の条件、譲渡に関する事項は次のとおりであります。

(1) 新株予約権の行使の条件

新株予約権の割当を受けたものは、権利行使時においても、当社又は当社の子会社、関係会社の取締役、監査役、従業員もしくは顧問の地位にあることを要す。ただし、任期満了による退任、定年退職その他正当な理由のある場合はこの限りでない。

新株予約権の譲渡、質入その他の処分は認めない。

新株予約権者は、当社普通株式にかかる株券が上場もしくは店頭登録された場合に限り、新株予約権を行使することができる。

その他の条件については、株主総会及び取締役会決議に基づき、当社と新株予約権の割当を受けた者との間で締結する「新株予約権付与契約書」に定めるところによる。

(2) 新株予約権の消却

新株予約権者が権利行使をする前に、当社ならびに子会社の取締役、監査役、従業員の地位喪失により新株予約権を行使できなかった場合、当該新株予約権については無償で消却することができるものとする。

(3) 新株予約権の譲渡制限

新株予約権を譲渡する場合は、当社取締役会の承認を要するものとする。

4. 新株予約権の数、新株予約権の目的となる株式の数は、特別決議による新株発行予定数から、退職等による権利を喪失した数を控除した数のことであります。
5. 平成17年3月9日付けで1株を4株、平成18年3月1日付けで1株を5株の割合をもって株式の分割を行っており、上記の表に記載の新株予約権の目的となる株式の数、払込金額、発行価格及び資本組入額は調整後の数を記載しております。

(平成17年3月30日の定時株主総会決議により平成17年4月20日発行)

区分	事業年度末現在 (平成19年12月31日)	提出日の前月末現在 (平成20年2月29日)
新株予約権の数(個)	250 (注) 3	同左
新株予約権のうち自己新株予約権の数	-	同左
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	1,250 (注) 1, 3, 4	同左
新株予約権の行使時の払込金額(円)	20,000 (注) 4	同左
新株予約権の行使期間	平成19年4月1日から 平成27年3月29日まで	同左 同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 20,000 (注) 4 資本組入額 10,000 (注) 4	同左 同左
新株予約権の行使の条件	(注) 2	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	(注) 2	同左
代用払込みに関する事項	-	-
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	当社が完全子会社となる株式交換又は株式移転を行う場合は、新株予約権に係る義務を、当該株式交換又は株式移転による完全親会社となる会社に承継させる。	同左

(注) 1. 当社が株式分割又は株式併合を行う場合、次の算式により目的となる株式の数を調整し、調整の結果生じる1株の100分の1未満の端数については、これを切り捨てます。

調整後株式数 = 調整前株式数 × 分割・併合の比率

2. 新株予約権の行使に係わる行使の条件、譲渡に関する事項は次のとおりであります。

(1) 新株予約権の行使の条件

取締役、監査役、従業員として新株予約権の割当を受けたものは、権利行使時においても、当社又は当社の子会社、関係会社の取締役、監査役、従業員もしくは顧問の地位にあることを要す。ただし、任期満了による退任、定年退職その他正当な理由のある場合はこの限りでない。

新株予約権の譲渡、質入その他の処分は認めない。

新株予約権者は、当社普通株式にかかる株券が上場された場合に限り、新株予約権を行使することができる。

その他の条件については、株主総会及び取締役会決議に基づき、当社と新株予約権の割当を受けた者との間で締結する「新株予約権付与契約書」に定めるところによる。

(2) 新株予約権の消却

取締役、監査役、従業員として新株予約権の割当を受けたものは、新株予約権者が権利行使をする前に、当社又は当社の子会社、関係会社の取締役、監査役、従業員もしくは顧問の地位喪失により新株予約権を行使できなかった場合、当該新株予約権については無償で消却することができるものとする。

(3) 新株予約権の譲渡制限

新株予約権を譲渡する場合は、当社取締役会の承認を要するものとする。

3. 新株予約権の数、新株予約権の目的となる株式の数は、特別決議による新株発行予定数から、退職等による権利を喪失した数を控除した数のことであります。

4. 平成18年3月1日付けで1株を5株の割合をもって株式の分割を行っており、上記の表に記載の新株予約権の目的となる株式の数、払込金額、発行価格及び資本組入額は調整後の数を記載しております。

(平成18年3月30日の定時株主総会決議により平成18年4月21日発行)

区分	事業年度末現在 (平成19年12月31日)	提出日の前月末現在 (平成20年2月29日)
新株予約権の数(個)	692(注)4	同左
新株予約権のうち自己新株予約権の数	-	同左
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	692(注)1,4	同左
新株予約権の行使時の払込金額(円)	779,196	同左
新株予約権の行使期間	平成20年4月1日から 平成25年3月31日まで	同左 同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 779,196 資本組入額 389,598	同左 同左
新株予約権の行使の条件	(注)3	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	(注)3	同左
代用払込みに関する事項	-	-
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	当社が完全子会社となる株式交換又は株式移転を行う場合は、新株予約権に係る義務を、当該株式交換又は株式移転による完全親会社となる会社に承継させる。	同左

(注)1. 当社が株式分割又は株式併合を行う場合、次の算式により目的となる株式の数を調整し、調整の結果生じる1株未満の端数については、これを切り捨てます。

調整後株式数 = 調整前株式数 × 分割・併合の比率

2. 当社が時価を下回る価額で新株を発行又は自己株式の処分(新株予約権の行使による場合を除く)をするときは、次の算式により発行価額を調整し、調整による1円未満の端数は切り上げます。

$$\text{調整後行使価額} = \frac{\text{調整前行使価額} \times \left(\text{既発行株式数} + \frac{\text{新発行株式数} \times 1 \text{株当たり払込金額}}{\text{新株式発行前1株当たり時価}} \right)}{\text{既発行株式数} + \text{新発行株式数}}$$

3. 新株予約権の行使に係わる行使の条件、譲渡に関する事項は次のとおりであります。

(1) 新株予約権の行使の条件

取締役、監査役、従業員として新株予約権の割当を受けたものは、権利行使時においても、当社又は当社の子会社、関係会社の取締役、監査役、従業員又は顧問の地位にあることを要す。ただし、任期満了による退任、定年退職その他取締役会が正当な理由のあると認めた場合はこの限りでない。

新株予約権の譲渡、質入その他の処分は認めない。

その他の条件については、株主総会及び取締役会決議に基づき、当社と新株予約権の割当を受けた者との間で締結する「新株予約権付与契約書」に定めるところによる。

(2) 新株予約権の消却

新株予約権者が権利行使をする前に、当社及び当社子会社の取締役、監査役、従業員の地位喪失により新株予約権を行使できなかった場合、当該新株予約権については無償で消却することができるものとする。

(3) 新株予約権の譲渡制限

新株予約権を譲渡する場合は、当社取締役会の承認を要するものとする。

4. 新株予約権の数、新株予約権の目的となる株式の数は、特別決議による新株発行予定数から、退職等による権利を喪失した数を控除した数のこととなります。

会社法に基づき発行した新株予約権は、次のとおりであります。

(平成19年3月29日の定時株主総会決議により平成19年6月20日発行)

区分	事業年度末現在 (平成19年12月31日)	提出日の前月末現在 (平成20年2月29日)
新株予約権の数(個)	372 (注) 4	同左
新株予約権のうち自己新株予約権の数	-	同左
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	372 (注) 1, 4	同左
新株予約権の行使時の払込金額(円)	184,000	同左
新株予約権の行使期間	平成21年4月1日から 平成25年3月31日まで	同左 同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 184,000 資本組入額 92,000	同左 同左
新株予約権の行使の条件	(注) 3	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	(注) 3	同左
代用払込みに関する事項	-	-
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	当社が完全子会社となる株式交換又は株式移転を行う場合は、新株予約権に係る義務を、当該株式交換又は株式移転による完全親会社となる会社に承継させる。	同左

(注) 1. 当社が株式分割又は株式併合を行う場合、次の算式により目的となる株式の数を調整し、調整の結果生じる1株未満の端数については、これを切り捨てます。

調整後株式数 = 調整前株式数 × 分割・併合の比率

2. 当社が時価を下回る価額で新株を発行又は自己株式の処分(新株予約権の行使による場合を除く)をするときは、次の算式により発行価額を調整し、調整による1円未満の端数は切り上げます。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新発行株式数} \times 1 \text{株当たり払込金額}}{\text{新株式発行前1株当たり時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新発行株式数}}$$

3. 新株予約権の行使に係わる行使の条件、譲渡に関する事項は次のとおりであります。

(1) 新株予約権の行使の条件

当社取締役又は監査役として新株予約権の割当を受けたものは、権利行使時においても、当社の取締役又は監査役の地位にあることを要す。

当社従業員及び当社子会社の取締役及び従業員として新株予約権の割当を受けたものは、権利行使時においても、当社、当社子会社又は関連会社の取締役、監査役、従業員又は顧問の地位にあることを要す。ただし、取締役会が正当な理由があると認めた場合はこの限りでない。

新株予約権の譲渡、質入その他の処分は認めない。

その他の条件については、株主総会及び取締役会決議に基づき、当社と新株予約権の割当を受けた者との間で締結する「新株予約権付与契約書」の定めるところによる。

(2)新株予約権の取得

新株予約権者が権利行使をする前に、当社又は当社子会社、関連会社の取締役、監査役、従業員もしくは顧問の地位喪失により新株予約権を行使できなかった場合、当該新株予約権については無償で取得することができるものとする。

(3)新株予約権の譲渡制限

新株予約権を譲渡する場合は、当社取締役会の承認を要するものとする。

4. 新株予約権の数、新株予約権の目的となる株式の数は、特別決議による新株発行予定数から、退職等により権利を喪失した数を控除した数のこととなります。

(3)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数(株)	発行済株式総数残高(株)	資本金増減額(千円)	資本金残高(千円)	資本準備金増減額(千円)	資本準備金残高(千円)
平成16年12月22日 (注)1	200	3,450	20,000	246,150	20,000	162,150
平成17年3月9日 (注)2	13,050	16,500		246,150		162,150
平成17年11月29日 (注)3	1,100	17,600	607,750	853,900	943,250	1,105,400
平成17年1月1日～ 平成17年12月31日 (注)4	1,176	18,776	29,400	883,300	29,850	1,135,250
平成18年3月1日 (注)5	75,104	93,880		883,300		1,135,250
平成18年1月1日～ 平成18年12月31日 (注)6	2,400	96,280	12,000	895,300	12,000	1,147,250
平成19年5月1日 (注)7		96,280		895,300	1,147,250	
平成19年1月1日～ 平成19年12月31日 (注)8	3,065	99,345	18,850	914,150	18,850	18,850

(注)1 有償・第三者割当 発行価格200,000円 資本組入額100,000円 割当先 柳澤安慶ほか13名

2 株式1株を4株に分割

3 有償一般募集(ブックビルディング方式による募集)

発行価格1,410,000円 資本組入額552,500円 払込金総額1,551,000千円

4 新株引受権及び新株予約権の権利行使によるものであります。

5 株式1株を5株に分割

6 新株予約権の権利行使によるものであります。

7 資本準備金をその他資本剰余金に振替えたものであります。

8 新株予約権の権利行使によるものであります。

(5) 【所有者別状況】

平成19年12月31日現在

区分	株式の状況							計
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	
					個人以外	個人		
株主数(人)	-	7	17	97	20	1	5,494	5,636
所有株式数(株)	-	3,459	1,513	15,992	2,939	5	75,437	99,345
所有株式数の割合(%)	-	3.48	1.52	16.10	2.95	0.01	75.94	100.00

(注) 自己株式800株は、「個人その他」に含めて記載しております。

(6) 【大株主の状況】

平成19年12月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
柳澤安慶	神奈川県川崎市高津区	29,740	29.94
楽天株式会社	東京都港区六本木6-10-1	5,779	5.82
アール・シー・ワイ・ブラザーズ株式会社	神奈川県横浜市中区山下町1	5,346	5.38
株式会社インプレスホールディングス	東京都千代田区三番町20	3,913	3.94
松本洋志	神奈川県横浜市栄区	3,189	3.21
日本証券金融株式会社	東京都中央区日本橋茅場町1-2-10	3,168	3.19
張力牧	東京都港区	3,162	3.18
小林直行	東京都中野区	2,410	2.43
内田徹	神奈川県藤沢市	2,389	2.40
杉山紳一郎	東京都港区	1,720	1.73
計	-	60,816	61.22

(7)【議決権の状況】

【発行済株式】

平成19年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 800	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 98,545	98,545	-
発行済株式総数	99,345	-	-
総株主の議決権	-	98,545	-

【自己株式等】

平成19年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社ファンコミュニケーションズ	東京都渋谷区渋谷1丁目1番8号	800	-	800	0.81
計	-	800	-	800	0.81

(8) 【ストックオプション制度の内容】

当社は、ストックオプション制度を採用しております。当該制度は、旧商法及び会社法に基づき新株予約権を発行する方法によるものであります。

当該制度の内容は、以下のとおりであります。

(平成15年3月28日の定時株主総会決議)

決議年月日	平成15年3月28日
付与対象者の区分及び人数(名)	取締役4 従業員15(注)1
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式
株式の数(株)	12,000(注)2.4
新株予約権の行使時の払込金額(円)	(注)3
新株予約権の行使期間	(注)3
新株予約権の行使の条件	(注)3
新株予約権の譲渡に関する事項	(注)3
代用払込みに関する事項	-
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	当社が完全子会社となる株式交換又は株式移転を行う場合は、新株予約権に係る義務を、当該株式交換又は株式移転による完全親会社となる会社に承継させる。

(注)1. 付与対象者は退職及び新株予約権の行使により、取締役4名、従業員5名となっております。

2. 株式の数は付与対象者の退職及び新株予約権の行使により、6,880株となっております。

3. 新株予約権の内容については、「(2)新株予約権等の状況」に記載しております。

4. 平成17年3月9日付で1株を4株、平成18年3月1日付で1株を5株の割合をもって株式の分割を行ったことに伴い、上記の表及び(注)2の株式の数は調整されております。

(平成16年3月30日の定時株主総会決議)

決議年月日	平成16年3月30日
付与対象者の区分及び人数(名)	取締役3 従業員26(注)1
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式
株式の数(株)	3,880(注)2.4
新株予約権の行使時の払込金額(円)	(注)3
新株予約権の行使期間	(注)3
新株予約権の行使の条件	(注)3
新株予約権の譲渡に関する事項	(注)3
代用払込みに関する事項	-
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	当社が完全子会社となる株式交換又は株式移転を行う場合は、新株予約権に係る義務を、当該株式交換又は株式移転による完全親会社となる会社に承継させる。

(注)1. 付与対象者は退職及び新株予約権の行使により、取締役3名、従業員14名となっております。

2. 株式の数は付与対象者の退職及び新株予約権の行使により、2,260株となっております。

3. 新株予約権の内容については、「(2)新株予約権等の状況」に記載しております。

4. 平成17年3月9日付で1株を4株、平成18年3月1日付で1株を5株の割合をもって株式の分割を行ったことに伴い、上記の表及び(注)2の株式の数は調整されております。

(平成17年3月30日の定時株主総会決議)

決議年月日	平成17年3月30日
-------	------------

付与対象者の区分及び人数(名)	取締役6 監査役2 従業員51 重要取引先及び顧問6(注)1
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式
株式の数(株)	2,180(注)2,4
新株予約権の行使時の払込金額(円)	(注)3
新株予約権の行使期間	(注)3
新株予約権の行使の条件	(注)3
新株予約権の譲渡に関する事項	(注)3
代用払込みに関する事項	-
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	当社が完全子会社となる株式交換又は株式移転を行う場合は、新株予約権に係る義務を、当該株式交換又は株式移転による完全親会社となる会社に承継させる。

(注)1. 付与対象者は退職及び新株予約権の行使により、取締役4名、従業員31名となっております。

2. 株式の数は付与対象者の退職及び新株予約権の行使により、1,250株となっております。

3. 新株予約権の内容については、「(2)新株予約権等の状況」に記載しております。

4. 平成18年3月1日付けで1株を5株の割合をもって株式の分割を行ったことに伴い、上記の表及び(注)2の株式の数は調整されております。

(平成18年3月30日の定時株主総会決議)

決議年月日	平成18年3月30日
付与対象者の区分及び人数(名)	取締役5 監査役3 従業員85(注)1
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式
株式の数(株)	922(注)2
新株予約権の行使時の払込金額(円)	(注)3
新株予約権の行使期間	(注)3
新株予約権の行使の条件	(注)3
新株予約権の譲渡に関する事項	(注)3
代用払込みに関する事項	-
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	当社が完全子会社となる株式交換又は株式移転を行う場合は、新株予約権に係る義務を、当該株式交換又は株式移転による完全親会社となる会社に承継させる。

(注)1. 付与対象者は退職により、取締役5名、監査役3名、従業員58名となっております。

2. 株式の数は付与対象者の退職により、692株となっております。

3. 新株予約権の内容については、「(2)新株予約権等の状況」に記載しております。

(平成19年3月29日の定時株主総会決議)

決議年月日	平成19年3月29日
付与対象者の区分及び人数(名)	取締役5 監査役3 従業員91(注)1
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式
株式の数(株)	395(注)2
新株予約権の行使時の払込金額(円)	(注)3
新株予約権の行使期間	(注)3
新株予約権の行使の条件	(注)3
新株予約権の譲渡に関する事項	(注)3
代用払込みに関する事項	-
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	当社が完全子会社となる株式交換又は株式移転を行う場合は、新株予約権に係る義務を、当該株式交換又は株式移転による完全親会社となる会社に承継させる。

(注)1. 付与対象者は退職により、取締役5名、監査役3名、従業員84名となっております。

2. 株式の数は付与対象者の退職により、372株となっております。

3. 新株予約権の内容については、「(2)新株予約権等の状況」に記載しております。

(平成20年3月28日の定時株主総会決議)

決議年月日	平成20年3月28日
付与対象者の区分及び人数(名)	当社の取締役及び監査役、当社の従業員及び当社子会社の取締役及び従業員 なお、人数等の詳細については定時株主総会以降の取締役会にて決定する。
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式
株式の数(株)	当社の取締役及び監査役60株、当社従業員及び当社子会社の取締役及び従業員340株、合計400株を上限とする。 (注)1
新株予約権の行使時の払込金額(円)	(注)2. 3
新株予約権の行使期間	平成22年4月1日から平成26年3月31日まで
新株予約権の行使の条件	(注)4
新株予約権の譲渡に関する事項	(注)4
代用払込みに関する事項	-
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	当社が完全子会社となる株式交換又は株式移転を行う場合は、新株予約権に係る義務を、当該株式交換又は株式移転による完全親会社となる会社に承継させる。

(注)1. 当社が株式分割又は株式併合を行う場合、次の算式により目的となる株式の数を調整し、調整の結果生じる1株未満の端数については、これを切り捨てます。

調整後株式数 = 調整前株式数 × 分割・併合の比率

2. 払込金額は、新株予約権を発行する日の属する月の前月の各日(取引が成立していない日を除く)における株式会社ジャスダック証券取引所における当社株式普通取引の終値の平均値に1.05を乗じた金額(1円未満の端数は切上げ)とします。ただし、当該金額が新株予約権発行日の最終価格を下回る場合は、新株予約権発行日の最終価格を行使価額とします。

なお、当社が株式分割又は株式併合を行う場合、次の算式により行使価格を調整し、調整による1円未満の端数は切り上げます。

調整後行使価額 = 調整前行使価格 × (1 / 分割・併合の比率)

3. 発行日以降、当社が時価を下回る価額で新株を発行又は自己株式の処分(新株予約権の行使による場合を除

く) をするときは、次の算式により発行価額を調整し、調整による1円未満の端数は切り上げます。

$$\text{調整後行使価額} = \frac{\text{調整前行使価額} \times \left(\text{既発行株式数} + \frac{\text{新発行株式数} \times 1 \text{株当たり払込金額}}{\text{新株式発行前1株当たり時価}} \right)}{\text{既発行株式数} + \text{新発行株式数}}$$

4. 新株予約権の行使に係わる行使の条件、譲渡に関する事項は次のとおりであります。

(1) 新株予約権の行使の条件

当社取締役又は監査役として新株予約権の割当を受けたものは、権利行使時においても、当社の取締役又は監査役の地位にあることを要す。ただし、取締役会が正当な理由があると認めた場合はこの限りでない。

当社従業員及び当社子会社の取締役及び従業員として新株予約権の割当を受けたものは、権利行使時においても、当社、当社子会社又は関連会社の取締役、監査役、従業員又は顧問の地位にあることを要す。ただし、取締役会が正当な理由があると認めた場合はこの限りでない。

新株予約権の譲渡、質入その他の処分は認めない。

その他の条件については、株主総会及び取締役会決議に基づき、当社と新株予約権の割当を受けた者との間で締結する「新株予約権付与契約書」に定めるところによる。

(2) 新株予約権の取得

新株予約権者が権利行使をする前に、当社又は当社子会社、関連会社の取締役、監査役、従業員もしくは顧問の地位喪失により新株予約権を行使できなかった場合、当該新株予約権については無償で取得することができるものとする。

(3) 新株予約権の譲渡制限

新株予約権を譲渡する場合は、当社取締役会の承認を要するものとする。

2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第3号に該当する普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
取締役会(平成19年2月19日)での決議状況 (取得期間 平成19年2月20日～平成19年3月28日)	800	200,000,000
当事業年度前における取得自己株式		
当事業年度における取得自己株式	800	180,874,000
残存決議株式の総数及び価額の総額		19,126,000
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)		9.6
当期間における取得自己株式		
提出日現在の未行使割合(%)		

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
取締役会(平成20年2月14日)での決議状況 (取得期間 平成20年2月15日～平成20年3月27日)	4,000	200,000,000
当事業年度前における取得自己株式		
当事業年度における取得自己株式		
残存決議株式の総数及び価額の総額		
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)		
当期間における取得自己株式	1,304	122,199,700
提出日現在の未行使割合(%)	67.4	38.9

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

該当事項はありません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額 (円)	株式数(株)	処分価額の総額 (円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式				
消却の処分を行った取得自己株式				
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式				
その他				
保有自己株式数	800		2,104	

3【配当政策】

当社は、利益配分につきましては、将来の事業展開と経営体質の強化のために必要な内部留保を確保しつつ、株主に對する利益配分として純利益の20%程度を配当性向とし年1回の期末配当を行うことを基本方針としております。この剰余金の配当の決定機関は株主総会であります。

当事業年度の配当につきましては、上記方針に基づき1株あたり1,200円の配当を実施することを決定しました。この結果、当事業年度の配当性向は24.2%となりました。

内部留保資金につきましては、財務体質の強化と積極的な事業展開のための備えとするほか、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策を遂行するための自社株式の取得等に充てたいと考えております。

当社は、「取締役会の決議により、毎年6月30日を基準日として、中間配当を行うことができる。」旨を定款に定めております。

なお、当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)
平成20年3月28日 定時株主総会決議	118,254	1,200

4【株価の推移】

(1)【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第5期	第6期	第7期	第8期	第9期
決算年月	平成15年12月	平成16年12月	平成17年12月	平成18年12月	平成19年12月
最高(円)	-	-	4,600,000	7,730,000 971,000	331,000
最低(円)	-	-	2,470,000	3,320,000 250,000	69,000

(注)1. 最高・最低株価は、ジャスダック証券取引所におけるものであります。

なお、平成17年11月30日付をもって同取引所に株式を上場いたしましたので、それ以前の株価については該当事項はありません。

2. 印は、平成18年3月1日付の株式分割(1株につき5株の割合)による権利落後の最高株価及び最低株価を示しております。

(2)【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成19年7月	8月	9月	10月	11月	12月
最高(円)	205,000	147,000	115,000	265,000	260,000	199,000
最低(円)	140,000	97,200	69,000	91,500	138,000	117,000

(注)1. 最高・最低株価は、ジャスダック証券取引所におけるものであります。

5【役員の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
取締役社長 (代表取締役)		柳澤 安慶	昭和39年10月20日生	昭和63年4月 廣告社株式会社入社 平成6年6月 株式会社ラビドシステムズ入社 平成8年10月 同社取締役就任 平成11年10月 当社設立 代表取締役社長(現任)	平成20年3月の 定時株主総会か ら2年	29,740
取締役副社長	事業開発 部及び サービス 企画部管 掌	松本 洋志	昭和35年4月10日生	昭和59年4月 株式会社データ・プロセス・コン サルタント入社 昭和61年4月 株式会社日本マーケティング研究 所入社 平成2年11月 ユニソル株式会社入社 平成4年10月 日本A T & T株式会社入社 平成6年9月 株式会社ラビドシステムズ入社 平成9年7月 ウェブティービーネットワークス 株式会社入社 平成10年5月 日本ゲートウェイ株式会社入社 平成11年10月 当社設立 取締役副社長(現任)	平成20年3月の 定時株主総会か ら2年	3,189
取締役	技術開発 部及び情 報システ ム部管掌	内田 徹	昭和44年5月12日生	平成2年3月 ソフトウェア興業株式会社入社 平成7年8月 株式会社ラビドシステムズ入社 平成11年10月 当社設立 取締役(現任)	平成20年3月の 定時株主総会か ら2年	2,389
取締役	営業本部 長兼業務 推進部管 掌	佐藤 吉勝	昭和42年7月21日生	平成3年4月 廣告社株式会社入社 平成12年11月 当社入社 平成14年10月 営業部長 平成16年4月 執行役員 平成17年1月 営業本部長(現任) 平成17年3月 取締役(現任)	平成20年3月の 定時株主総会か ら2年	249
取締役	技術開発 部長	広瀬 計	昭和39年2月14日生	昭和61年4月 有限会社エフ・エス・ディー入社 平成2年8月 株式会社国際情報研究所入社 平成9年4月 富士通エフ・アイ・ピー株式会社 入社 平成12年10月 当社入社 平成14年10月 技術開発部長(現任) 平成16年4月 執行役員 平成17年3月 取締役(現任)	平成20年3月の 定時株主総会か ら2年	350
取締役	管理部管 掌	堂下 裕章	昭和34年11月13日生	昭和58年7月 昭和監査法人(現新日本監査法 人)入所 平成元年12月 日本アセアン投資株式会社(現日 本アジア投資株式会社)入社 平成13年8月 I T X株式会社入社 平成15年4月 公認会計士登録 平成15年10月 当社入社 管理部長兼公開準備室長 平成16年4月 執行役員 平成17年3月 取締役(現任)	平成20年3月の 定時株主総会か ら2年	134
常勤監査役		柳澤 信美	昭和14年1月7日生	昭和43年12月 日立粉末冶金株式会社入社 平成元年7月 同社営業本部機器営業部長 平成5年7月 同社営業本部長兼自動車部品営 業部長 平成9年6月 関東商事株式会社入社 同社取締役営業本部長 平成16年6月 当社常勤監査役(現任)	平成20年3月の 定時株主総会か ら4年	88

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
監査役		柿本 謙二	昭和42年 5月 4日生	平成元年10月 サンワ・等松青木監査法人(現監査法人トーマツ)入所 平成5年11月 公認会計士登録 平成9年4月 公認会計士柿本謙二事務所(現アーク総合事務所)を開設 所長(現任) 平成11年10月 当社監査役(現任) 平成15年4月 株式会社アイピービーを設立 代表取締役社長(現任) 平成18年10月 株式会社アルデプロ社外監査役(現任)	平成20年3月の定時株主総会から4年	55
監査役		出澤 秀二	昭和32年 1月 15日生	昭和58年4月 弁護士登録(第一東京弁護士会) 平成7年3月 出澤法律事務所(現出澤総合法律事務所)開設 所長(現任) 平成18年3月 当社監査役(現任) 平成18年4月 ビジョン株式会社社外監査役(現任)	平成18年3月の定時株主総会から4年	8
計						36,202

(注) 1. 監査役柳澤信美、柿本謙二及び出澤秀二は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。

2. 当社では、意思決定・監督と業務執行の効率化による取締役会の活性化のため、執行役員制度を導入しております。執行役員は1名で、社長室長 杉山紳一郎であります。

3. 当社は、法令に定める監査役の員数を欠くこととなる場合に場合に備え、会社法第329条第2項に定める補欠監査役を1名を選任しております。補欠監査役の略歴は次のとおりであります。

氏名	生年月日	略歴	所有株式数 (株)
山田 憲次	昭和33年 5月 3日生	昭和57年12月 AIU保険会社入社 平成6年4月 株式会社ファンテック代表取締役(現任) 平成10年6月 ケンコーマヨネーズ株式会社社外監査役(現任)	-

6【コーポレート・ガバナンスの状況】

(1) コーポレートガバナンスに関する基本的な考え方

当社のコーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方は、経営の効率性と適法性を同時に確保しつつ、健全に発展するために必要な経営統治体制の整備や施策を実施することであり、経営上の最も重要な課題と位置付けております。さらに、この目的を実現するためにも、株主をはじめとする利害関係者の方々に対する経営情報の適時開示(タイムリー・ディスクロージャー)を通じて透明性のある経営を行っていく所存であります。

(2) 会社の機関の内容

当社は、取締役会と監査役制度を設け、この2つの機関が中心となって、コーポレート・ガバナンスの維持・強化を図る体制をとっております。

取締役会は、毎月一回の定例会合を、また、特段の必要が生じた場合には臨時の会合を開催し、原則として取締役6名、監査役3名のほか執行役員に参加をもって議事を行うこととしております。取締役会は、経営方針、その他経営に関する重要事項を決定するとともに、業務執行状況を監督する機関として運用されております。

監査役会は、社外監査役3名にて組織しており、年間監査計画に基づき監査を行っております。また監査役には弁護士、公認会計士が含まれており、専門的分野の監査も可能な体制となっております。

このほか、取締役6名及び各部署の責任者7名からなる経営会議を月2回定期的に開催し、各部の状況報告、経営課題及び重要事項についての協議・情報共有を行っております。常勤監査役は経営会議に出席し、経営全般に関し広く検討を行っております。

(3) 内部統制システムの整備の状況

内部統制システムに関する基本方針

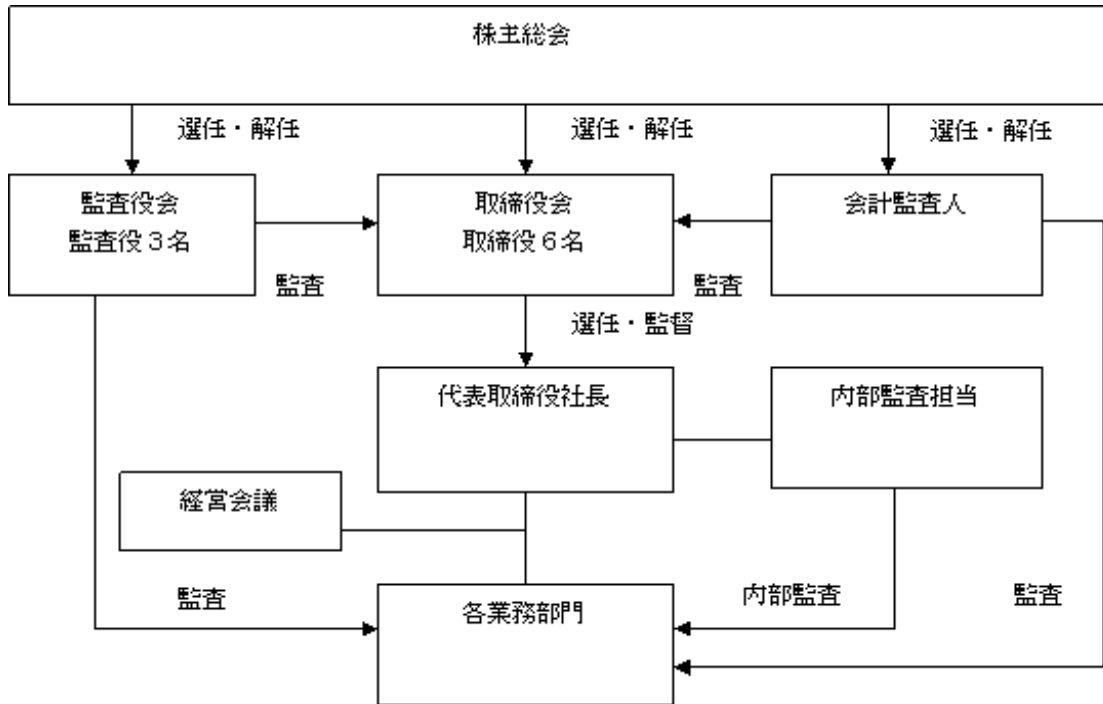
当社は、必要な業務・管理機能を所定の部組織に分割して担わせ、業務規程、権限規程の遵守を徹底することで、権限分離と内部牽制を実現する業務運営を図ることとしております。

さらに、内部監査機関として社長直属の組織である社長室に内部監査の機能を持たせ年度ごとの内部監査スケジュールに沿った内部監査を実施し、内部牽制組織の有効性をモニタリングすることとしております。

なお、内部統制システム構築に関する基本方針については、以下の項目に関して具体的内容を平成18年5月19日開催の当社取締役会にて決議しております。

1. 取締役及び従業員の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制
2. 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制
3. 損失の危険の管理に関する規程その他の体制
4. 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制
5. 当該株式会社並びにその親会社及び子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制
6. 監査役を補助すべき従業員に関する体制と当該従業員の取締役からの独立性に関する事項
7. 取締役及び従業員が監査役に報告をするための体制その他の監査役への報告に関する体制及び監査役が実効的に行われることを確保するための体制

(会社の機関、内部統制の関係)

**内部監査及び監査役監査の状況**

内部監査は社長直属の組織である社長室が担当し、社長室長及びスタッフの2名が中心に、必要に応じて他部門の者の協力を得る形で行っております。内部監査に当たっては年間の監査計画に基づき、業務規程、権限規程の遵守状況のほか、各部におけるコンプライアンス遵守体制及びリスク管理状況を調査検証しております。

監査役監査は監査役3名により、取締役会及び経営会議に出席するほか年間の監査計画に基づき、法令定款の遵守状況を中心に各部の業務活動全般について行っております。

内部監査及び監査役監査の実施に当たっては、内部監査担当者及び監査役間で相互報告を行うほか、監査法人から監査の方法と結果に関する報告を受け、相互の連携を図っております。

リスク管理体制の整備の状況

当社は、リスク管理が経営の最重要課題の一つであるとの認識から、独立したリスク管理機関としてリスクマネジメント委員会を設置し、すべてのリスクを総合的に管理し、経営全体で当社リスクの認識・管理を行う体制としています。

なお、当社ではリスクのうち法令順守に係る「コンプライアンス関連リスク」、社内情報・システム管理に係る「情報セキュリティ関連リスク」を特に重要なものとして管理しており、リスクマネジメント委員会から委任を受けた機関として、それぞれコンプライアンス管理委員会並びに情報セキュリティ委員会を設置しております。発生しうるリスクの防止及びリスク発生時の迅速かつ適切な対処を目的に、各委員会は社内主管部署からの連絡・報告を受け、リスク管理状況の把握・検討やリスク管理方針の決定を行っております。

また、当社は業務を運営するにあたり、各リスクに関する諸規程を整備し、ルールに基づいた適正なリスク管理を実施する等、リスク管理体制の整備・充実に努めています。

会計監査の状況

当社は、金融商品取引法及び会社法の規定に基づき、あずさ監査法人の監査を受けております。

なお、平成19年12月期における監査体制は以下のとおりであります。

業務を執行した公認会計士の氏名、継続関与年数及び所属する監査法人

公認会計士の氏名等		所属する監査法人
指定社員 業務執行社員	宮 直仁	あずさ監査法人
指定社員 業務執行社員	浅岡 伸生	あずさ監査法人

継続関与年数については、全員7年以内であるため、記載を省略しております。

監査業務に係る補助者の構成

公認会計士 3名 会計士補等 3名 その他 7名

会社と会社の社外取締役及び社外監査役の人的関係、資本的関係又は取引関係その他の利害関係の概要

当社は社外取締役を選任しておりません。

監査役3名は、いずれも会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。各監査役は、当社株式をそれぞれ88株、55株、8株保有しており、発行済株式総数に対する各監査役の所有株数の割合はそれぞれ0.09%、0.06%、0.01%です。また、ストック・オプションとして当社潜在株式をそれぞれ12株、7株、11株保有しております。この他に当社と監査役との間には、人的関係、取引関係、その他の利害関係はありません。

(4) 役員報酬の内容

第9期(平成19年12月期)における当社の取締役及び監査役に対する報酬は以下のとおりであります。

	人数	金額
取締役に支払った報酬	6名	76,907千円
監査役に支払った報酬 (うち社外監査役分)	3名 (3名)	7,929千円 (7,929千円)

- (注) 1. 第1回定時株主総会決議(平成12年3月27日)による取締役の報酬年額は180,000千円以内、監査役の報酬年額は20,000千円以内であります。なお別枠にて、第9回定時株主総会決議(平成20年3月28日)によるストック・オプションとして発行する新株予約権に関する取締役の報酬年額は10,000千円以内、監査役の報酬年額は2,000千円以内であります。
2. スtock・オプションとして割り当てた新株予約権の費用計上額が、取締役5名に対し945千円、監査役3名に対し189千円含まれております。

(5) 監査報酬等の内容

第9期(平成19年12月期)に係る監査報酬等の内容は以下のとおりであります。

	金額
公認会計士法第2条第1項に規定する業務に基づく報酬	17,300千円
上記以外の報酬の金額	- 千円

(注) 上記のうち1,300千円は前事業年度の監査報酬改定による追加分であります。

(6) その他

社外監査役との責任限定契約

当社と社外監査役は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を法令に規定する最低責任限度額に限定する契約を締結しております。なお、当該責任限定が認められるのは、社外監査役が責任の原因となった職務の遂行について善意かつ重大な過失がないときに限られます。

取締役の員数

当社の取締役は10名以内とする旨定款に定めております。

取締役及び監査役を選任の決議要件

当社は、取締役及び監査役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨定款に定めております。

取締役会決議による自己株式の取得

当社は、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議をもって、自己の株式を取得することができる旨を定款に定めております。これは、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を目的とするため、市場取引等により自己の株式を取得することを目的とするものであります。

株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上にあたる多数をもって行う旨定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

第5【経理の状況】

1．財務諸表の作成方法について

(1) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、前事業年度（平成18年1月1日から平成18年12月31日まで）は、改正前の財務諸表等規則に基づき、当事業年度（平成19年1月1日から平成19年12月31日まで）は、改正後の財務諸表等規則に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、証券取引法第193条の2の規定に基づき、前事業年度（平成18年1月1日から平成18年12月31日まで）の財務諸表について、あずさ監査法人及び双葉監査法人による共同監査を受けております。また、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当事業年度（平成19年1月1日から平成19年12月31日まで）の財務諸表について、あずさ監査法人による監査を受けております。

なお、当社の監査人は次のとおり異動しております。

前事業年度 あずさ監査法人及び双葉監査法人

当事業年度 あずさ監査法人

3．連結財務諸表について

当社は子会社がありませんので、連結財務諸表を作成しておりません。

1 【財務諸表等】
 (1) 【財務諸表】
 【貸借対照表】

区分	注記 番号	前事業年度 (平成18年12月31日)		当事業年度 (平成19年12月31日)		
		金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)	
(資産の部)						
流動資産						
1. 現金及び預金			1,502,697		1,466,019	
2. 受取手形			525			
3. 売掛金			575,923		535,477	
4. 有価証券			875,466		1,787,051	
5. 抵当証券			700,000			
6. 貯蔵品			567		592	
7. 前渡金			9,547		4,499	
8. 前払費用			18,179		23,517	
9. 繰延税金資産			45,539		47,568	
10. その他			4,594		4,934	
貸倒引当金			23,385		31,813	
流動資産合計			3,709,655	81.8	3,837,846	81.7
固定資産						
(1) 有形固定資産						
1. 建物		18,849		19,118		
減価償却累計額		1,810	17,039	4,248	14,870	
2. 工具器具備品		103,692		124,426		
減価償却累計額		52,381	51,311	74,588	49,837	
有形固定資産合計			68,350	1.5	64,708	1.4
(2) 無形固定資産						
1. ソフトウェア			47,581		75,844	
2. ソフトウェア仮勘定					67,842	
3. その他			14,436			
無形固定資産合計			62,017	1.4	143,686	3.0
(3) 投資その他の資産						
1. 投資有価証券			610,625		525,392	
2. 破産更生債権等			732		527	
3. 長期前払費用			4,540		4,415	
4. 繰延税金資産			3,859		49,742	
5. 敷金及び保証金			74,416		74,416	
貸倒引当金			732		527	
投資その他の資産合計			693,441	15.3	653,967	13.9
固定資産合計			823,810	18.2	862,362	18.3
資産合計			4,533,465	100.0	4,700,209	100.0

区分	注記 番号	前事業年度 (平成18年12月31日)		当事業年度 (平成19年12月31日)	
		金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
(負債の部)					
流動負債					
1. 買掛金		710,541		739,121	
2. 短期借入金		54,000		40,000	
3. 未払金		97,577		80,954	
4. 未払費用		3,426		4,131	
5. 未払法人税等		233,308		196,935	
6. 未払消費税等		27,634		17,734	
7. 前受金		210,188		145,910	
8. 預り金		12,905		12,430	
9. 賞与引当金		34,000		41,600	
10. ポイント引当金		2,011			
11. その他				2,331	
流動負債合計		1,385,594	30.5	1,281,150	27.2
固定負債					
1. 預り保証金		35,316		73,568	
固定負債合計		35,316	0.8	73,568	1.6
負債合計		1,420,910	31.3	1,354,718	28.8
(純資産の部)					
株主資本					
1. 資本金		895,300	19.7	914,150	19.4
2. 資本剰余金					
(1) 資本準備金		1,147,250		18,850	
(2) その他資本剰余金				1,147,250	
資本剰余金合計		1,147,250	25.3	1,166,100	24.8
3. 利益剰余金					
(1) その他利益剰余金					
繰越利益剰余金		1,070,985		1,441,353	
利益剰余金合計		1,070,985	23.7	1,441,353	30.7
4. 自己株式				180,874	3.8
株主資本合計		3,113,535	68.7	3,340,729	71.1
評価・換算差額等					
1. その他有価証券評価差額金		980	0.0	2,708	0.1
評価・換算差額等合計		980	0.0	2,708	0.1
新株予約権				7,470	0.2
純資産合計		3,112,555	68.7	3,345,490	71.2
負債純資産合計		4,533,465	100.0	4,700,209	100.0

【損益計算書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自平成18年1月1日 至平成18年12月31日)		当事業年度 (自平成19年1月1日 至平成19年12月31日)			
		金額(千円)	百分比 (%)	金額(千円)	百分比 (%)		
売上高			5,367,930	100.0	5,687,521	100.0	
売上原価			3,283,190	61.2	3,353,780	59.0	
売上総利益			2,084,740	38.8	2,333,740	41.0	
販売費及び一般管理費							
1. 広告宣伝費		94,483			131,576		
2. 販売手数料		126,312			151,850		
3. 役員報酬		59,280			59,521		
4. 給与手当		370,076			479,933		
5. 法定福利費		51,621			69,954		
6. 地代家賃		82,812			119,800		
7. 減価償却費		18,088			37,419		
8. 貸倒引当金繰入額		3,245			13,320		
9. 賞与引当金繰入額		29,043			38,375		
10. ポイント引当金繰入額		2,011					
11. その他		266,841	1,103,817	20.5	283,038	1,384,791	24.3
営業利益			980,922	18.3	948,949	16.7	
営業外収益							
1. 受取利息		368			1,614		
2. 有価証券利息		6,316			17,000		
3. 受取配当金		-			24		
4. 投資有価証券売却益		13,460			4,591		
5. その他		2,598	22,743	0.4	3,150	26,381	0.4
営業外費用							
1. 支払利息		690			713		
2. 株式交付費		5,136			131		
3. 投資有価証券売却損		1,995			688		
4. 自己株式取得費用					361		
5. その他		947	8,770	0.2	1,895	0.0	
経常利益			994,895	18.5	973,435	17.1	

区分	注記 番号	前事業年度 (自平成18年1月1日 至平成18年12月31日)		当事業年度 (自平成19年1月1日 至平成19年12月31日)		
		金額(千円)	百分比 (%)	金額(千円)	百分比 (%)	
特別損失	1					
1. 固定資産除却損		5,292		4,558		
2. 投資有価証券評価損				108,833		
3. 証券代行移行費用		5,292	0.1	19,321	132,713	2.3
税引前当期純利益		989,603	18.4	840,722		14.8
法人税、住民税及び事業 税		397,251		396,458		
法人税等調整額		2,375		46,725		
過年度法人税等		399,626	7.4	5,084	354,817	6.3
当期純利益	589,976	11.0	485,904		8.5	

売上原価明細書

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成18年1月1日 至 平成18年12月31日)		当事業年度 (自 平成19年1月1日 至 平成19年12月31日)	
		金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
媒体費	1	87,275	2.7	64,053	1.9
労務費		84,370	2.6	66,424	2.0
支払成果報酬		2,906,631	88.5	3,114,623	92.3
経費		204,913	6.2	128,525	3.8
（うち業務委託料）		(150,144)		(44,989)	
（うち減価償却費）		(13,137)		(7,904)	
（うち賃借料）		(35,164)		(41,853)	
計		3,283,190	100.0	3,373,626	100.0
他勘定振替高				19,845	
売上原価合計			3,283,190		3,353,780

1 他勘定振替高の内訳は次のとおりであります。

前事業年度 (自 平成18年1月1日 至 平成18年12月31日)	当事業年度 (自 平成19年1月1日 至 平成19年12月31日)
	ソフトウェア仮勘定 19,845千円

【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自平成18年1月1日至平成18年12月31日）

	株主資本					株主資本 合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		
		資本準備金	資本剰余金 合計	その他 利益剰余金 繰越 利益剰余金	利益剰余金 合計	
前事業年度（平成17年12月31日） 残高（千円）	883,300	1,135,250	1,135,250	481,009	481,009	2,499,559
事業年度中の変動額						
新株の発行	12,000	12,000	12,000			24,000
当期純利益				589,976	589,976	589,976
株主資本以外の項目の事業年度 中の変動額（純額）						
事業年度中の変動額合計 （千円）	12,000	12,000	12,000	589,976	589,976	613,976
当事業年度（平成18年12月31日） 残高（千円）	895,300	1,147,250	1,147,250	1,070,985	1,070,985	3,113,535

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	評価・換算差額 等合計	
前事業年度（平成17年12月31日） 残高（千円）	2,137	2,137	2,501,696
事業年度中の変動額			
新株の発行			24,000
当期純利益			589,976
株主資本以外の項目の事業年度中 の変動額（純額）	3,117	3,117	3,117
事業年度中の変動額合計 （千円）	3,117	3,117	610,858
当事業年度（平成18年12月31日） 残高（千円）	980	980	3,112,555

当事業年度（自平成19年1月1日至平成19年12月31日）

	株主資本						自己株式	株主資本 合計
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			
		資本準備金	その他 資本剰余金	資本剰余金 合計	その他 利益剰余金 繰越 利益剰余金	利益剰余金 合計		
前事業年度（平成18年12月31 日）残高（千円）	895,300	1,147,250		1,147,250	1,070,985	1,070,985		3,113,535
事業年度中の変動額								
新株の発行（千円）	18,850	18,850		18,850				37,700
その他資本剰余金へ振替（千 円）		1,147,250	1,147,250					
剰余金の配当（千円）					115,536	115,536		115,536
当期純利益（千円）					485,904	485,904		485,904
自己株式の取得（千円）							180,874	180,874
株主資本以外の項目の事業年 度中の変動額（純額） （千円）								
事業年度中の変動額合計 （千円）	18,850	1,128,400	1,147,250	18,850	370,368	370,368	180,874	227,194

	株主資本							
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		自己株式	株主資本 合計
		資本準備金	その他 資本剰余金	資本剰余金 合計	その他 利益剰余金 繰越 利益剰余金	利益剰余金 合計		
当事業年度末（平成19年12月31日）残高（千円）	914,150	18,850	1,147,250	1,166,100	1,441,353	1,441,353	180,874	3,340,729

	評価・換算差額等		新株予約権	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	評価・換算差額 等合計		
前事業年度（平成18年12月31日）残高（千円）	980	980		3,112,555
事業年度中の変動額				
新株の発行（千円）				37,700
その他資本剰余金へ振替 （千円）				
剰余金の配当（千円）				115,536
当期純利益（千円）				485,904
自己株式の取得（千円）				180,874
株主資本以外の項目の事業年 度中の変動額（純額） （千円）	1,728	1,728	7,470	5,741
事業年度中の変動額合計 （千円）	1,728	1,728	7,470	232,935
当事業年度末（平成19年12月31日）残高（千円）	2,708	2,708	7,470	3,345,490

【キャッシュ・フロー計算書】

		前事業年度 (自 平成18年1月1日 至 平成18年12月31日)	当事業年度 (自 平成19年1月1日 至 平成19年12月31日)
区分	注記 番号	金額(千円)	金額(千円)
営業活動によるキャッシュ・フロー			
税引前当期純利益		989,603	840,722
減価償却費		31,226	45,324
賞与引当金の増減額		13,293	7,600
貸倒引当金の増減額		8,509	8,222
ポイント引当金の増減額		2,011	2,011
受取利息及び配当金		6,684	18,639
株式交付費		5,136	131
固定資産除却損		5,292	4,558
投資有価証券評価損			108,833
証券代行移行費			19,321
投資有価証券売却損		1,995	688
投資有価証券売却益		13,460	4,591
売上債権の増減額		93,351	41,177
仕入債務の増減額		123,757	28,579
未払消費税等の増減額		10,006	9,899
前受金の増減額		39,776	64,277
未払金の増減額		34,586	8,510
預り保証金の増減額		6,950	38,252
その他		2,434	11,303
小計		1,105,281	1,046,784
利息及び配当金の受取額		4,139	13,094
利息の支払額		690	713
証券代行移行費用の支払額			18,270
法人税等の支払額		490,069	432,445
営業活動によるキャッシュ・フロー		618,660	608,449

		前事業年度 (自 平成18年1月1日 至 平成18年12月31日)	当事業年度 (自 平成19年1月1日 至 平成19年12月31日)
区分	注記 番号	金額(千円)	金額(千円)
投資活動によるキャッシュ・フロー			
投資有価証券の取得による支出		1,873,487	3,484,584
投資有価証券の売却による収入		457,158	113,160
投資有価証券の償還による収入		200,000	3,089,000
抵当証券の取得による支出		700,000	
有形固定資産の取得による支出		46,660	31,201
無形固定資産の取得による支出		52,866	105,870
敷金及び保証金の差入による支出		30,013	
その他		3,353	2,702
投資活動によるキャッシュ・フロー		2,049,222	422,197
財務活動によるキャッシュ・フロー			
短期借入金の増減額		6,000	14,000
株式の発行による収入		18,863	37,568
自己株式の取得による支出			181,235
配当金の支払額			113,204
財務活動によるキャッシュ・フロー		24,863	270,872
現金及び現金同等物に係る換算差額			
現金及び現金同等物の増減額		1,405,698	84,620
現金及び現金同等物の期首残高		2,995,255	1,589,557
現金及び現金同等物の期末残高	1	1,589,557	1,504,936

重要な会計方針

項目	前事業年度 (自 平成18年1月1日 至 平成18年12月31日)	当事業年度 (自 平成19年1月1日 至 平成19年12月31日)
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	(1) その他有価証券 時価のあるもの 決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。 時価のないもの 移動平均法による原価法	(1) その他有価証券 時価のあるもの 同左 時価のないもの 同左
2. たな卸資産の評価基準及び評価方法	(1) 貯蔵品 最終仕入原価法による原価法	(1) 貯蔵品 同左
3. 固定資産の減価償却の方法	(1) 有形固定資産 定率法を採用しております。 なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。 建物 15年 工具器具備品 4年～10年 (2) 無形固定資産 自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。 (3) 長期前払費用 定額法を採用しております。	(1) 有形固定資産 平成19年3月31日以前に取得したものの旧定率法を採用しております。 平成19年4月1日以後に取得したものの定率法を採用しております。 なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。 建物 15年 工具器具備品 4年～10年 (会計方針の変更) 法人税法の改正に伴い、当事業年度より、平成19年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。 これによる、営業利益、経常利益及び税引前当期純利益への影響は軽微であります。 (2) 無形固定資産 同左 (3) 長期前払費用 同左
4. 繰延資産の処理方法	(1) 株式交付費 支出時に全額費用として処理しております。	(1) 株式交付費 同左
5. 引当金の計上基準	(1) 貸倒引当金 売上債権の貸倒れに備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。 (2) 賞与引当金 賞与引当金については、従業員の賞与の支給に備えるため、支給見込額の当事業年度の負担額を計上しております。	(1) 貸倒引当金 同左 (2) 賞与引当金 同左

項目	前事業年度 (自 平成18年1月1日 至 平成18年12月31日)	当事業年度 (自 平成19年1月1日 至 平成19年12月31日)
	<p>(3) ポイント引当金</p> <p>将来のポイント使用による費用発生に備えるため、当事業年度末未使用ポイント残高に使用実績割合等に乗じた金額を計上しております。</p> <p>(追加情報)</p> <p>当事業年度からポイント制度を導入したことにより、ポイント引当金を計上しております。この結果、販売費及び一般管理費は、2,011千円増加し、営業利益、経常利益及び税引前当期純利益は同額減少しております。</p>	<p>(3) ポイント引当金</p> <p>将来のポイント使用による費用発生に備えるため、当事業年度末未使用ポイント残高に使用実績割合等に乗じた金額を計上しております。</p> <p>なお、当事業年度末においては、未使用ポイントがないため、ポイント引当金は計上しておりません。</p>
6. リース取引の処理方法	リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。	同左
7. キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲	手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3か月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。	同左
8. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	(1) 消費税等の会計処理 消費税等の会計処理は税抜方式によっております。	(1) 消費税等の会計処理 同左

会計処理方法の変更

前事業年度 (自 平成18年1月1日 至 平成18年12月31日)	当事業年度 (自 平成19年1月1日 至 平成19年12月31日)
<p>(固定資産の減損に係る会計基準)</p> <p>当事業年度から、固定資産の減損に係る会計基準(「固定資産の減損に係る会計基準の設定に関する意見書」(企業会計審議会 平成14年8月9日))及び「固定資産の減損に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針 第6号 平成15年10月31日)を適用しております。これによる損益に与える影響はありません。</p> <p>(役員賞与に関する会計基準)</p> <p>当事業年度から、「役員賞与に関する会計基準」(企業会計基準第4号 平成17年11月29日)を適用しております。これによる損益に与える影響はありません。</p> <p>(貸借対照表「純資産の部」表示に関する会計基準)</p> <p>当事業年度から、「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準」(企業会計基準第5号 平成17年12月9日)及び「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準等の適用指針」(企業会計基準適用指針第8号 平成17年12月9日)を適用しております。</p> <p>従来の資本の部の合計に相当する金額は3,112,555千円です。</p> <p>なお、財務諸表等規則の改正により、当事業年度における貸借対照表の純資産の部については、改正後の財務諸表等規則により作成しております。</p>	

表示方法の変更

前事業年度 (自 平成18年1月1日 至 平成18年12月31日)	当事業年度 (自 平成19年1月1日 至 平成19年12月31日)
<p>(キャッシュ・フロー計算書)</p> <p>営業活動によるキャッシュ・フローの「受取利息及び配当金」は前事業年度は「その他」に含めて表示しておりましたが、金額的重要性が増したため区分掲記しております。</p> <p>なお、前事業年度の「その他」に含まれる「受取利息及び配当金」は 39千円であります。</p> <p>(繰延資産の会計処理に関する当面の取扱い)</p> <p>当事業年度より、「繰延資産の会計処理に関する当面の取扱い」(企業会計基準委員会 平成18年8月11日実務対応報告第19号)を適用しております。</p> <p>前事業年度において営業外費用の内訳として表示していた「新株発行費」は、当事業年度より「株式交付費」として表示する方法に変更しております。</p> <p>また、前事業年度において営業活動によるキャッシュ・フローの内訳として表示していた「新株発行費」は、当事業年度より「株式交付費」として表示する方法に変更しております。</p>	<p>(貸借対照表)</p> <p>前事業年度において流動資産の「抵当証券」として表示しておりました抵当証券(前事業年度700,000千円、当事業年度700,000千円)は金融商品取引法の施行による一連の会計基準等の改正を受けて、当事業年度から「有価証券」に含めて表示しております。</p> <p>また、無形固定資産の「ソフトウェア仮勘定」は前事業年度には「その他」に含めて表示しておりましたが、金額的重要性が増したため区分掲記しております。</p> <p>なお、前事業年度の「その他」に含まれる「ソフトウェア仮勘定」は14,436千円であります。</p> <p>(キャッシュ・フロー計算書)</p> <p>前事業年度において投資活動によるキャッシュ・フローの「抵当証券の取得による支出」として表示しておりました抵当証券(前事業年度 700,000千円、当事業年度 2,300,000千円)は金融商品取引法の施行による一連の会計基準等の改正を受けて、当事業年度から「投資有価証券の取得による支出」に含めて表示しております。</p>

注記事項

(損益計算書関係)

前事業年度 (自 平成18年1月1日 至 平成18年12月31日)	当事業年度 (自 平成19年1月1日 至 平成19年12月31日)
1. 固定資産除却損は、工具器具備品除却損33千円、ソフトウェア除却損5,259千円であります。	1. 固定資産除却損は、工具器具備品除却損73千円、ソフトウェア除却損4,484千円であります。

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自平成18年1月1日至平成18年12月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前事業年度末株式数 (株)	当事業年度 増加株式数 (株)	当事業年度 減少株式数 (株)	当事業年度末株式数 (株)
発行済株式				
普通株式(注)	18,776	77,504	-	96,280
合計	18,776	77,504	-	96,280
自己株式				
普通株式	-	-	-	-
合計	-	-	-	-

(注) 普通株式の発行済株式総数の増加77,504株は、株式分割(1:5)による増加75,104株及び新株予約権の権利行使による新株の発行による増加2,400株であります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

該当事項はありません。

(2) 基準日が当期に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成19年3月29日 定時株主総会決議	普通株式	115,536	利益剰余金	1,200	平成18年12月31日	平成19年3月30日

当事業年度(自平成19年1月1日至平成19年12月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前事業年度末株式数 (株)	当事業年度 増加株式数 (株)	当事業年度 減少株式数 (株)	当事業年度末株式数 (株)
発行済株式				
普通株式(注1)	96,280	3,065		99,345
合計	96,280	3,065		99,345
自己株式				
普通株式(注2)		800		800
合計		800		800

(注) 1. 普通株式の発行済株式総数の増加3,065株は、新株予約権の権利行使による新株の発行による増加であります。

2. 普通株式の自己株式の株式数の増加800株は、自己株式の市場買付けによる増加であります。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

区分	新株予約権の内訳	新株予約権 の目的となる 株式の種類	新株予約権の目的となる株式の数(株)				当事業年度 末残高 (千円)
			前事業年度 末	当事業年度 増加	当事業年度 減少	当事業年度 末	
提出会社	ストック・オプションとして の新株予約権					7,470	
	合計					7,470	

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成19年3月29日 定時株主総会	普通株式	115,536	1,200	平成18年12月31日	平成19年3月30日

(2) 基準日が当期に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成20年3月28日 定時株主総会決議	普通株式	118,254	利益剰余金	1,200	平成19年12月31日	平成20年3月31日

(キャッシュ・フロー計算書関係)

前事業年度 (自平成18年1月1日 至平成18年12月31日)	当事業年度 (自平成19年1月1日 至平成19年12月31日)
1. 現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成18年12月31日現在) (千円)	1. 現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成19年12月31日現在) (千円)
現金及び預金勘定 1,502,697	現金及び預金勘定 1,466,019
マネー・マネージメント・ファンド 86,859	マネー・マネージメント・ファンド 38,916
現金及び現金同等物 1,589,557	現金及び現金同等物 1,504,936

(リース取引関係)

前事業年度 (自平成18年1月1日 至平成18年12月31日)	当事業年度 (自平成19年1月1日 至平成19年12月31日)
内容の重要性が乏しく、契約1件当たりの金額が少額なリース取引のため、財務諸表等規則第8条の6第6項の規定により記載を省略しております。	同左

(有価証券関係)

1. その他有価証券で時価のあるもの

	種類	前事業年度 (平成18年12月31日)			当事業年度 (平成19年12月31日)		
		取得原価 (千円)	貸借対照表計 上額(千円)	差額 (千円)	取得原価 (千円)	貸借対照表計 上額(千円)	差額 (千円)
貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	(1) 債券						
	国債・地方債	99,792	99,837	44	199,997	200,567	569
	社債	219,626	219,850	223	1,022	1,042	20
	その他	99,829	99,840	10			
	小計	419,249	419,527	277	201,020	201,609	589
貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	(1) 株式	1,600	1,488	112	1,200	525	675
	(2) 債券						
	国債・地方債等	150,134	149,620	514	50,000	49,870	130
	社債	689,900	688,596	1,303	1,129,708	1,125,356	4,351
	小計	841,634	839,704	1,930	1,180,908	1,175,751	5,156
	合計	1,260,884	1,259,231	1,652	1,381,928	1,377,361	4,567

2. 前事業年度及び当事業年度中に売却したその他有価証券

前事業年度 (自平成18年1月1日 至平成18年12月31日)			当事業年度 (自平成19年1月1日 至平成19年12月31日)		
売却額(千円)	売却益の合計額 (千円)	売却損の合計額 (千円)	売却額(千円)	売却益の合計額 (千円)	売却損の合計額 (千円)
457,158	13,460	1,995	113,160	4,591	688

3. 時価評価されていない主な有価証券の内容

	前事業年度 (平成18年12月31日)	当事業年度 (平成19年12月31日)
	貸借対照表計上額(千円)	貸借対照表計上額(千円)
(1) その他有価証券		
非上場株式	140,000	96,166
マネー・マネージメント・ファンド	86,859	38,916
抵当証券		700,000
リース債権信託受益権		100,000

(注) 当事業年度において、その他有価証券で時価のない株式について、108,833千円の減損処理をしております。

4. その他有価証券のうち満期があるもの及び満期保有目的の債券の今後の償還予定額

	前事業年度 (平成18年12月31日)				当事業年度 (平成19年12月31日)			
	1年以内	1年超5年 以内	5年超10年 以内	10年超	1年以内	1年超5年 以内	5年超10年 以内	10年超
	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)
1. 債券								
(1) 国債・地方債等	100,000	150,000	-	-	150,000	100,000	-	-
(2) 社債	589,000	250,000	68,000	-	800,000	331,000	-	-
(3) その他	100,000	-	-	-	100,000	-	-	-
2. その他	-	-	-	-	700,000	-	-	-
合計	789,000	400,000	68,000	-	1,750,000	431,000	-	-

(デリバティブ取引関係)

前事業年度(自平成18年1月1日至平成18年12月31日)

当社はデリバティブ取引を全く利用しておりませんので、該当事項はありません。

当事業年度(自平成19年1月1日至平成19年12月31日)

当社はデリバティブ取引を全く利用しておりませんので、該当事項はありません。

(退職給付関係)

前事業年度(自平成18年1月1日至平成18年12月31日)

当社は退職給付制度がないため、該当事項はありません。

当事業年度(自平成19年1月1日至平成19年12月31日)

当社は退職給付制度がないため、該当事項はありません。

(ストック・オプション等関係)

前事業年度(自平成18年1月1日至平成18年12月31日)

1. スtock・オプションの内容、規模及びその変動状況

(1) スtock・オプションの内容

	平成15年3月 定時株主総会決議 ストックオプション	平成16年3月 定時株主総会決議 ストックオプション	平成17年3月 定時株主総会決議 ストックオプション	平成18年3月 定時株主総会決議 ストックオプション
付与対象者の区分及び数	当社取締役 4名 当社従業員 15名	当社取締役 3名 当社従業員 26名	当社取締役 6名 当社監査役 2名 当社従業員 51名 重要取引先及び顧問 6名	当社取締役 5名 当社監査役 3名 当社従業員 85名
ストックオプション数 (注1)	普通株式 12,000株	普通株式 3,880株	普通株式 2,180株	普通株式 922株
付与日	平成16年3月10日	平成16年12月22日	平成17年4月20日	平成18年4月21日
権利確定条件	権利行使日において、当社または当社の子会社の取締役または従業員の地位にあること。	権利行使日において、当社、当社の子会社または関係会社の取締役、監査役、従業員または顧問の地位にあること。	取締役、監査役、従業員として新株予約権の割当を受けたものは、権利行使日において、当社、当社の子会社または関係会社の取締役、監査役、従業員または顧問の地位にあること。	権利行使日において、当社、当社の子会社または関係会社の取締役、監査役、従業員または顧問の地位にあること。
対象勤務期間(注2)	平成16年3月10日から 平成21年3月31日まで	平成16年12月22日から 平成21年3月31日まで	平成17年4月20日から 平成21年3月31日まで	平成18年4月21日から 平成23年3月31日まで
権利行使期間(注2)	平成17年4月1日から 平成25年3月27日まで	平成18年4月1日から 平成26年3月29日まで	平成19年4月1日から 平成27年3月29日まで	平成20年4月1日から 平成25年3月31日まで

(注)1. 株式数に換算して記載しております。なお、平成17年3月9日付株式分割(株式1株につき4株)、平成18年3月1日付株式分割(株式1株につき5株)による分割後の株式数を記載しております。

(注)2. 各付与対象者との間で締結の「新株予約権付与契約書」により対象者ごとに異なっております。

(2) ストック・オプションの規模及びその変動状況

当事業年度において存在したストック・オプションを対象とし、ストック・オプションの数については、株式数に換算して記載しております。

ストック・オプションの数

	平成15年3月 定時株主総会決議 ストックオプション	平成16年3月 定時株主総会決議 ストックオプション	平成17年3月 定時株主総会決議 ストックオプション	平成18年3月 定時株主総会決議 ストックオプション
権利確定前 (株)				
前事業年度末	10,400	3,520	2,065	-
付与	-	-	-	922
失効	-	-	45	68
権利確定	1,840	560	-	-
未確定残	8,560	2,960	2,020	854
権利確定後 (株)				
前事業年度末	-	-	-	-
権利確定	1,840	560	-	-
権利行使	1,840	560	-	-
失効	-	-	-	-
未行使残	-	-	-	-

(注) 平成17年3月9日付株式分割(株式1株につき4株)、平成18年3月1日付株式分割(株式1株につき5株)による分割後の株式数を記載しております。

単価情報

	平成15年3月 定時株主総会決議 ストックオプション	平成16年3月 定時株主総会決議 ストックオプション	平成17年3月 定時株主総会決議 ストックオプション	平成18年3月 定時株主総会決議 ストックオプション
権利行使価格 (円)	10,000	10,000	20,000	779,196
行使時平均株価 (円)	725,000	725,000	-	-
公正な評価単価(付与日) (円)	-	-	-	-

(注) 権利行使価格は、平成17年3月9日付株式分割(株式1株につき4株)、平成18年3月1日付株式分割(株式1株につき5株)による調整後の1株当たりの価格を記載しております。

当事業年度(自平成19年1月1日至平成19年12月31日)

1. ストック・オプションの内容、規模及びその変動状況

(1) ストック・オプションの内容

	平成15年3月 定時株主総会決議 ストックオプション	平成16年3月 定時株主総会決議 ストックオプション	平成17年3月 定時株主総会決議 ストックオプション	平成18年3月 定時株主総会決議 ストックオプション	平成19年3月 定時株主総会決議 ストックオプション
付与対象者の区分及び数	当社取締役 4名 当社従業員 15名	当社取締役 3名 当社従業員 26名	当社取締役 6名 当社監査役 2名 当社従業員 51名 重要取引先及び顧問 6名	当社取締役 5名 当社監査役 3名 当社従業員 85名	当社取締役 5名 当社監査役 3名 当社従業員 91名
ストック・オプション数(注1)	普通株式 12,000株	普通株式 3,880株	普通株式 2,180株	普通株式 922株	普通株式 395株
付与日	平成16年3月10日	平成16年12月22日	平成17年4月20日	平成18年4月21日	平成19年6月20日

	平成15年3月 定時株主総会決議 ストックオプション	平成16年3月 定時株主総会決議 ストックオプション	平成17年3月 定時株主総会決議 ストックオプション	平成18年3月 定時株主総会決議 ストックオプション	平成19年3月 定時株主総会決議 ストックオプション
権利確定条件	権利行使日において、当社または当社の子会社の取締役または従業員の地位にあること。	権利行使日において、当社、当社の子会社または関係会社の取締役、監査役、従業員または顧問の地位にあること。	取締役、監査役、従業員として新株予約権の割当を受けたものは、権利行使日において、当社、当社の子会社または関係会社の取締役、監査役、従業員または顧問の地位にあること。	権利行使日において、当社、当社の子会社または関係会社の取締役、監査役、従業員または顧問の地位にあること。	取締役及び監査役として付与を受けた者については、権利行使時において、当社の取締役または監査役であること。従業員として付与を受けた者については、権利行使時において当社、当社の子会社または関連会社の取締役、監査役、従業員または顧問の地位にあること。
対象勤務期間 (注2)	平成16年4月1日から 平成21年3月31日まで	平成16年12月22日から 平成21年3月31日まで	平成17年4月20日から 平成21年3月31日まで	平成18年4月21日から 平成23年3月31日まで	平成19年6月20日から 平成21年3月31日まで
権利行使期間 (注2)	平成17年4月1日から 平成25年3月27日まで	平成18年4月1日から 平成26年3月29日まで	平成19年4月1日から 平成27年3月29日まで	平成20年4月1日から 平成25年3月31日まで	平成21年4月1日から 平成25年3月31日まで

(注)1．株式数に換算して記載しております。なお、平成17年3月9日付株式分割（株式1株につき4株）、平成18年3月1日付株式分割（株式1株につき5株）による分割後の株式数を記載しております。

(注)2．各付与対象者との間で締結の「新株予約権付与契約書」により対象者ごとに権利行使数の制限を設けております。

(2) ストック・オプションの規模及びその変動状況

当事業年度において存在したストック・オプションを対象とし、ストック・オプションの数については、株式数に換算して記載しております。

ストック・オプションの数

	平成15年3月 定時株主総会決議 ストックオプション	平成16年3月 定時株主総会決議 ストックオプション	平成17年3月 定時株主総会決議 ストックオプション	平成18年3月 定時株主総会決議 ストックオプション	平成19年3月 定時株主総会決議 ストックオプション
権利確定前 (株)					
前事業年度末	8,560	2,960	2,020	854	
付与					395
失効		20	65	162	23
権利確定	1,680	680	705		
未確定残	6,880	2,260	1,250	692	372
権利確定後 (株)					
前事業年度末					
権利確定	1,680	680	705		
権利行使	1,680	680	705		
失効					
未行使残					

(注) 平成17年3月9日付株式分割(株式1株につき4株)、平成18年3月1日付株式分割(株式1株につき5株)による分割後の株式数を記載しております。

単価情報

	平成15年3月 定時株主総会決議 ストックオプション	平成16年3月 定時株主総会決議 ストックオプション	平成17年3月 定時株主総会決議 ストックオプション	平成18年3月 定時株主総会決議 ストックオプション	平成19年3月 定時株主総会決議 ストックオプション
権利行使価格 (円)	10,000	10,000	20,000	779,196	184,000
行使時平均株価 (円)	213,000	213,000	213,000		
公正な評価単価 (付与日) (円)					78,675

(注) 権利行使価格は、平成17年3月9日付株式分割(株式1株につき4株)、平成18年3月1日付株式分割(株式1株につき5株)による調整後の1株当たりの価格を記載しております。

2. ストック・オプションの公正な評価単価の見積方法

当事業年度において付与された平成19年ストック・オプションについての公正な評価単価の見積方法は以下のとおりであります。

使用した評価技法 ブラック・ショールズ式

主な基礎数値及び見積方法

	平成19年ストック・オプション
株価変動性(注)1.	58.71%
予想残存期間(注)2.	3年11ヶ月
予想配当(注)3.	1,200円/株
無リスク利率(注)4.	1.316%

(注)1. 当社は上場後の期間が短く評価に適さないため、類似会社の株価実績に基づき算定しております。

2. 十分なデータの蓄積がなく、合理的な見積りが困難であるため、権利行使期間の中間点において行使されるものと推定して見積もっております。

3. 平成19年12月期の予想配当によっております。

4. 予想残存期間に対応する期間に対応する国債の利回りであります。

3. スtock・オプションの権利確定数の見積り方法

過去の退職による失効率を参考に、権利不確定による失効数を見積り算定しております。

4. 財務諸表への影響額

売上原価 271千円
販売費及び一般管理費 7,198千円

(企業結合等)

該当事項はありません。

(税効果会計関係)

前事業年度 (自平成18年1月1日 至平成18年12月31日)	当事業年度 (自平成19年1月1日 至平成19年12月31日)																																												
<p>1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別内訳</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">繰延税金資産 (千円)</td> <td style="width: 20%;"></td> </tr> <tr> <td>一括償却資産損金算入限度超過額</td> <td style="text-align: right;">4,154</td> </tr> <tr> <td>繰延消費税額等損金算入限度超過額</td> <td style="text-align: right;">106</td> </tr> <tr> <td>貸倒引当金損金算入限度超過額</td> <td style="text-align: right;">8,351</td> </tr> <tr> <td>賞与引当金繰入額否認</td> <td style="text-align: right;">13,834</td> </tr> <tr> <td>賞与引当金に係る未払社会保険料等否認</td> <td style="text-align: right;">1,394</td> </tr> <tr> <td>未払事業所税否認</td> <td style="text-align: right;">922</td> </tr> <tr> <td>未払事業税否認</td> <td style="text-align: right;">18,940</td> </tr> <tr> <td>その他有価証券評価差額金</td> <td style="text-align: right;">672</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td style="text-align: right;">1,022</td> </tr> <tr> <td>繰延税金資産合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">49,399</td> </tr> </table> <p>2. 法定実効税率と税効果会計適用後法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳 法定実効税率と税効果会計適用後の負担率との間の差異が法定実効税率の百分の五以下であるため注記を省略しております。</p>	繰延税金資産 (千円)		一括償却資産損金算入限度超過額	4,154	繰延消費税額等損金算入限度超過額	106	貸倒引当金損金算入限度超過額	8,351	賞与引当金繰入額否認	13,834	賞与引当金に係る未払社会保険料等否認	1,394	未払事業所税否認	922	未払事業税否認	18,940	その他有価証券評価差額金	672	その他	1,022	繰延税金資産合計	49,399	<p>1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別内訳</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">繰延税金資産 (千円)</td> <td style="width: 20%;"></td> </tr> <tr> <td>一括償却資産損金算入限度超過額</td> <td style="text-align: right;">4,218</td> </tr> <tr> <td>貸倒引当金損金算入限度超過額</td> <td style="text-align: right;">10,598</td> </tr> <tr> <td>賞与引当金繰入額否認</td> <td style="text-align: right;">16,927</td> </tr> <tr> <td>賞与引当金に係る未払社会保険料等否認</td> <td style="text-align: right;">1,680</td> </tr> <tr> <td>未払事業所税否認</td> <td style="text-align: right;">1,029</td> </tr> <tr> <td>未払事業税否認</td> <td style="text-align: right;">15,753</td> </tr> <tr> <td>その他有価証券評価差額金</td> <td style="text-align: right;">1,858</td> </tr> <tr> <td>投資有価証券評価損否認</td> <td style="text-align: right;">44,284</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td style="text-align: right;">959</td> </tr> <tr> <td>繰延税金資産合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">97,310</td> </tr> </table> <p>2. 法定実効税率と税効果会計適用後法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳 法定実効税率と税効果会計適用後の負担率との間の差異が法定実効税率の百分の五以下であるため注記を省略しております。</p>	繰延税金資産 (千円)		一括償却資産損金算入限度超過額	4,218	貸倒引当金損金算入限度超過額	10,598	賞与引当金繰入額否認	16,927	賞与引当金に係る未払社会保険料等否認	1,680	未払事業所税否認	1,029	未払事業税否認	15,753	その他有価証券評価差額金	1,858	投資有価証券評価損否認	44,284	その他	959	繰延税金資産合計	97,310
繰延税金資産 (千円)																																													
一括償却資産損金算入限度超過額	4,154																																												
繰延消費税額等損金算入限度超過額	106																																												
貸倒引当金損金算入限度超過額	8,351																																												
賞与引当金繰入額否認	13,834																																												
賞与引当金に係る未払社会保険料等否認	1,394																																												
未払事業所税否認	922																																												
未払事業税否認	18,940																																												
その他有価証券評価差額金	672																																												
その他	1,022																																												
繰延税金資産合計	49,399																																												
繰延税金資産 (千円)																																													
一括償却資産損金算入限度超過額	4,218																																												
貸倒引当金損金算入限度超過額	10,598																																												
賞与引当金繰入額否認	16,927																																												
賞与引当金に係る未払社会保険料等否認	1,680																																												
未払事業所税否認	1,029																																												
未払事業税否認	15,753																																												
その他有価証券評価差額金	1,858																																												
投資有価証券評価損否認	44,284																																												
その他	959																																												
繰延税金資産合計	97,310																																												

(持分法損益等)

前事業年度(自平成18年1月1日至平成18年12月31日)

当社は関連会社が存在しないため、該当事項はありません。

当事業年度(自平成19年1月1日至平成19年12月31日)

当社は関連会社が存在しないため、該当事項はありません。

【関連当事者との取引】

前事業年度(自平成18年1月1日至平成18年12月31日)

該当事項はありません。

当事業年度(自平成19年1月1日至平成19年12月31日)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

前事業年度 (自平成18年1月1日 至平成18年12月31日)		当事業年度 (自平成19年1月1日 至平成19年12月31日)	
1株当たり純資産額	32,328.15円	1株当たり純資産額	33,873.06円
1株当たり当期純利益金額	6,170.27円	1株当たり当期純利益金額	4,965.41円
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額	5,385.04円	潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額	4,480.22円
<p>当社は平成18年3月1日付で株式1株につき5株の株式分割を行っております。</p> <p>なお、当該株式分割が前期首に行われたと仮定した場合の前事業年度における1株当たり情報については、以下のとおりとなります。</p>			
1株当たり純資産額	26,647.81円		
1株当たり当期純利益金額	5,307.72円		
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額	4,461.43円		

(注) 1株当たり当期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 (自平成18年1月1日 至平成18年12月31日)	当事業年度 (自平成19年1月1日 至平成19年12月31日)
当期純利益(千円)	589,976	485,904
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る当期純利益(千円)	589,976	485,904
期中平均株式数(株)	95,615	97,858
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額		
当期純利益調整額(千円)	-	-
普通株式増加数(株)	13,914	10,598
(うち新株予約権)	(13,914)	(10,598)
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定に含めなかった潜在株式の概要	平成18年3月30日株主総会決議ストックオプション 普通株式 854株	平成18年3月30日株主総会決議ストックオプション 普通株式 692株 平成19年3月29日株主総会決議ストックオプション 普通株式 372株

(重要な後発事象)

<p style="text-align: center;">前事業年度 (自 平成18年1月1日 至 平成18年12月31日)</p>	<p style="text-align: center;">当事業年度 (自 平成19年1月1日 至 平成19年12月31日)</p>																				
<p>1. 自己株式の取得</p> <p>平成19年2月19日開催の当社取締役会において、当社定款第6条に基づき、自己株式を取得することを決議いたしました。その概要は次のとおりであります。</p> <p>(1)自己株式の取得を行う理由</p> <p>経営環境の変化に対応した機動的な資本施策を遂行するために自己株式を取得するものであります。</p> <p>(2)取得の内容</p> <table border="0"> <tr> <td>取得する株式の種類</td> <td>当社普通株式</td> </tr> <tr> <td>取得する株式の総数</td> <td>800株(上限)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(発行済普通株式総数に占める割合0.831%)</td> </tr> <tr> <td>株式の取得価額の総額</td> <td>200,000千円(上限)</td> </tr> <tr> <td>取得の時期</td> <td>平成19年2月20日から平成19年3月28日</td> </tr> </table> <p>2. 資本準備金の額の減少決議</p> <p>平成19年3月29日開催の第8回定時株主総会において、会社法第448条第1項の規定に基づき「資本準備金の額の減少の件」について決議しております。その概要は次のとおりであります。</p> <p>(1)減少する資本準備金の額等</p> <p>資本準備金1,147,250千円を全額減少させ、その他資本剰余金に振替えるもの</p> <p>(2)債権者異議申述最終期日</p> <p>平成19年4月30日</p> <p>(3)資本準備金の額の減少が効力を生じる日</p> <p>平成19年5月1日</p> <p>3. ストックオプションとして新株予約権の発行決議</p> <p>平成19年3月29日開催の第8回定時株主総会において、会社法第236条、第238条及び第239条の規定に基づき、当社取締役及び監査役、当社従業員及び当社子会社の取締役及び従業員に対して、「ストックオプションとして新株予約権を発行する件」を決議しております。</p> <p>この内容の詳細については、「第4 提出会社の状況 1 株式等の状況 (8)ストックオプション制度の内容」に記載しています。</p>	取得する株式の種類	当社普通株式	取得する株式の総数	800株(上限)		(発行済普通株式総数に占める割合0.831%)	株式の取得価額の総額	200,000千円(上限)	取得の時期	平成19年2月20日から平成19年3月28日	<p>1. 自己株式の取得</p> <p>平成20年2月14日開催の当社取締役会において、当社定款第8条に基づき、自己株式を取得することを決議いたしました。その概要は次のとおりであります。</p> <p>(1)自己株式の取得を行う理由</p> <p>経営環境の変化に対応した機動的な資本政策を遂行するために自己株式を取得するものであります。</p> <p>(2)取得の内容</p> <table border="0"> <tr> <td>取得する株式の種類</td> <td>当社普通株式</td> </tr> <tr> <td>取得する株式の総数</td> <td>4,000株(上限)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(発行済普通株式総数に占める割合4.026%)</td> </tr> <tr> <td>株式の取得価額の総額</td> <td>200,000千円(上限)</td> </tr> <tr> <td>取得の時期</td> <td>平成20年2月15日から平成20年3月27日</td> </tr> </table> <p>2. ストックオプションとして新株予約権の発行決議</p> <p>平成20年3月28日開催の第9回定時株主総会において、会社法第236条、第238条及び第239条の規定に基づき、当社取締役及び監査役、当社従業員及び当社子会社の取締役及び従業員に対して、「ストックオプションとして新株予約権を発行する件」を決議しております。</p> <p>この内容の詳細については、「第4 提出会社の状況 1 株式等の状況 (8)ストックオプション制度の内容」に記載しています。</p>	取得する株式の種類	当社普通株式	取得する株式の総数	4,000株(上限)		(発行済普通株式総数に占める割合4.026%)	株式の取得価額の総額	200,000千円(上限)	取得の時期	平成20年2月15日から平成20年3月27日
取得する株式の種類	当社普通株式																				
取得する株式の総数	800株(上限)																				
	(発行済普通株式総数に占める割合0.831%)																				
株式の取得価額の総額	200,000千円(上限)																				
取得の時期	平成19年2月20日から平成19年3月28日																				
取得する株式の種類	当社普通株式																				
取得する株式の総数	4,000株(上限)																				
	(発行済普通株式総数に占める割合4.026%)																				
株式の取得価額の総額	200,000千円(上限)																				
取得の時期	平成20年2月15日から平成20年3月27日																				

【附属明細表】

【有価証券明細表】

【株式】

種類及び銘柄		株式数(株)	貸借対照表計上額 (千円)	
投資有価証券	その他有価証券	(株)エンターモーション	225	24,804
		(株)リアルコミュニケーションズ	500	6,361
		(株)クレメンテック	100	15,000
		(株)コンテック	500	525
		(株)E Cホールディングス	1,000	50,000
計		2,325	96,691	

【債券】

種類及び銘柄		券面総額(千円)	貸借対照表計上額 (千円)	
有価証券	その他有価証券	東京都公募公債第8回	50,000	49,870
		第39回アイフル(株)無担保社債	100,000	99,879
		(株)ドン・キホーテ第1回無担保社債	100,000	100,000
		利付国債2年第244回	100,000	100,080
		フォルクスワーゲン・ファイナンシャル・サービス債	100,000	99,880
		アンデス開発公社債	100,000	99,679
		日興コーディアルグループ社債5回	100,000	99,790
		オリックス(株)第78回無担保社債	100,000	99,680
		ブルズキャピタル社債	100,000	99,764
		アールズエイト(ソフトバンクCB/JGBリパッケージ債)	100,000	99,510
投資有価証券	その他有価証券	ブルズキャピタル106(ジョイントコーポレーションリパッケージ・ユーロ円債)	100,000	99,872
		第7回平和不動産転換社債	1,000	1,042
		第258回利付国債(2年)	100,000	100,487
		第4回ダイソー無担保転換社債型新株予約権付社債	30,000	30,075
		第1回ソフトバンクテレコム社債	100,000	99,370
		第10回シティグループ・インク円貨社債	100,000	97,854
計		1,381,000	1,376,836	

【その他】

種類及び銘柄			投資口数等 (千口)	貸借対照表計上額 (千円)
有価証券	その他有価証券	みずほ証券(株) マネー・マネージメント・ ファンド	38,916	38,916
		日本抵当証券(株) 抵当証券	700,000	700,000
		三井住友ファイナンス&リー ス(株) リース債権信託受益権	100,000	100,000
計			838,916	838,916

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	前期末残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価償 却累計額又は 償却累計額 (千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末残 高(千円)
有形固定資産							
建物	18,849	269	-	19,118	4,248	2,438	14,870
工具器具備品	103,692	21,672	939	124,426	74,588	23,073	49,837
有形固定資産計	122,542	21,942	939	143,545	78,836	25,511	64,708
無形固定資産							
ソフトウェア	238,783	52,561	6,250	285,094	209,249	19,812	75,844
ソフトウェア仮勘定	14,436	78,519	25,113	67,842	-	-	67,842
無形固定資産計	253,220	131,080	31,364	352,936	209,249	19,812	143,686
長期前払費用	5,778	2,702	-	8,480	4,065	2,826	4,415
繰延資産							
株式交付費	-	-	-	-	-	-	-
繰延資産計	-	-	-	-	-	-	-

(注) 1. 当期増加額の主な内訳は以下のとおりであります。

ソフトウェア：プログシステム及び自社利用ソフトウェア制作費等 41,578千円

ソフトウェア仮勘定：自社利用ソフトウェア制作費等 78,519千円

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	前期末残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	54,000	40,000	1.9	-
1年以内に返済予定の長期借入金	-	-	-	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く)	-	-	-	-
その他の有利子負債	-	-	-	-
計	54,000	40,000	-	-

(注) 平均利率については、期末借入金残高に対する加重平均利率を記載しております。

【引当金明細表】

区分	前期末残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金	24,118	32,126	5,098	18,805	32,340
賞与引当金	34,000	41,600	34,000		41,600
ポイント引当金	2,011		2,011		

(注) 貸倒引当金の「当期減少額(その他)」は、一般債権の貸倒実績率による洗替額であります。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

現金及び預金

区分	金額(千円)
現金	574
預金	
普通預金	1,414,925
別段預金	519
定期預金	50,000
小計	1,465,445
合計	1,466,019

売掛金

(イ) 相手先別内訳

相手先	金額(千円)
株式会社メンバーズ	20,165
株式会社アドビジョン	15,365
楽天株式会社	12,640
アドデジタル株式会社	11,437
株式会社D Gメディアマーケティング	10,201
その他	465,666
合計	535,477

(ロ) 売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

前期繰越高 (千円)	当期発生高 (千円)	当期回収高 (千円)	次期繰越高 (千円)	回収率(%)	滞留期間(日)
(A)	(B)	(C)	(D)	$\frac{(C)}{(A) + (B)} \times 100$	(A) + (D) 2 (B) 365
575,923	5,971,897	6,007,215	535,477	91.7	34

(注) 当期発生高には消費税等が含まれております。

貯蔵品

区分	金額(千円)
販促物貯蔵品	592
合計	592

買掛金

相手先	金額(千円)
個人	8,883
株式会社リアラス	8,451
株式会社アドクロス	5,033
有限会社ロージー	4,350
ファイブゲート株式会社	4,349
その他	708,053
合計	739,121

(3)【その他】

該当事項はありません。

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	1月1日から12月31日まで
定時株主総会	決算日より3ヶ月以内
基準日	12月31日
株券の種類	1株券、10株券、100株券
剰余金の配当の基準日	6月30日 12月31日
1単元の株式数	
株式の名義書換え	
取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番4号 住友信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	大阪府大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社
取次所	住友信託銀行株式会社 本店及び全国各支店
名義書換手数料	無料
新券交付手数料	印紙税相当額
端株の買取り	
取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番4号 住友信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	大阪府大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社
取次所	住友信託銀行株式会社 本店及び全国各支店
買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	電子公告により行う。ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して行う。 公告掲載URL http://www.fancs.com
株主に対する特典	該当事項はありません。

第7【提出会社の参考情報】

1【提出会社の親会社等の情報】

当社には、親会社等はありません。

2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類

事業年度（第8期）（自平成18年1月1日至平成18年12月31日）平成19年3月29日関東財務局長に提出。

(2) 半期報告書及びその添付書類

事業年度（第9期）（自平成19年1月1日至平成19年6月30日）平成19年9月27日関東財務局長に提出。

(3) 自己株券買付状況報告書

平成19年3月6日 関東財務局長に提出。

平成19年4月6日 関東財務局長に提出。

平成20年3月3日 関東財務局長に提出。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書

平成19年3月29日

株式会社 ファンコミュニケーションズ

取締役会 御中

あずさ監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 宮直仁 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 浅岡伸生 印

双葉監査法人

代表社員
業務執行社員 公認会計士 外山雄一 印

私たち監査法人は、証券取引法第193条の2の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社ファンコミュニケーションズの平成18年1月1日から平成18年12月31日までの第8期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、キャッシュ・フロー計算書及び附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者にあり、私たち監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

私たち監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、私たち監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。私たち監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

私たち監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社ファンコミュニケーションズの平成18年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する事業年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

追記情報

(重要な後発事象)に自己株式の取得に関する記載がされている。

会社と私たち監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

独立監査人の監査報告書

平成20年3月28日

株式会社 ファンコミュニケーションズ

取締役会 御中

あずさ監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 宮直仁 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 浅岡伸生 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社ファンコミュニケーションズの平成19年1月1日から平成19年12月31日までの第9期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、キャッシュ・フロー計算書及び附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社ファンコミュニケーションズの平成19年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する事業年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

追記情報

(重要な後発事象)に自己株式の取得に関する記載がされている。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。